



BrightAuthor 4.6 機能別設定例

本書で述べられている製品やサービスは、2017年3月現在のものであり、改善のため事前の予告なく変更する場合があります。

はじめに

本書では BrightAuthor の設定例を紹介しています。BrightAuthor 日本語マニュアル（User Guide BrightAuthor Release 4.6）の補足資料としてご活用ください。

■目次

新規プロジェクトの作成	3
ループ再生の設定	6
プレゼンテーションの Publish（書き出し）	8
時刻の設定	10
スケジュールの設定	14
タッチイベントの設定	16
シリアル制御の設定	18
UDP 制御の設定	20
GPIO 制御の設定	22
同期再生 (Synchronization)	24
IP アドレスの設定	34
ネットワーク機能の紹介	37
Local File Networking の設定	39
Simple File Networking の設定	44
コンテンツファイルの変更	49
HTML5 の設定	51
HDMI 入力の設定	54
プレゼンテーションの切り替え	57
動画ファイルの一時停止の設定	62
モザイクモードの設定	65
Bright Beacon の設定	67



新規プロジェクトの作成

新規プロジェクトの作成

新規プロジェクトの作成

BrightAuthor を起動し『File > New Presentation』を選択します。**Edit タブ**になっていることを確認してください。

Save As : プレゼンテーションのファイル名を入力します。

Where : プレゼンテーションの保存先を選択します。

BrightSign Model : 使用する BrightSign の種類を選択します。

Connector type : ディスプレイと接続するコネクタタイプを選択します。

Screen resolution : 使用するディスプレイの解像度を選択します。(Connector type によって表示解像度が異なります)

Video zone configuration :

- Standard : 1 つまたは、2 つ (デュアルデコード対応機種に限る) のビデオゾーンを使用することができます。
- Mosaic : (対応機種: XT, 4K, XD3/XD2, HD3/HD2 シリーズ)

2 つ以上のビデオゾーンを使用することができます。設定は Edit タブ > Layout から行い、ビデオゾーンの解像度は下記の 5 種類から選択します。

4K(3840x2160), HD(1920x1080), SD(720x480), CIF(352x288), QCIF(176x144)

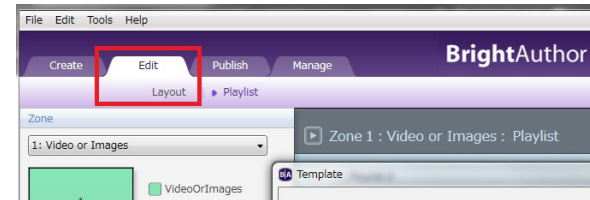
ビデオゾーン上限数の目安 = 「選択したビデオゾーンの解像度の和 ≤ 使用する機種の最大ビデオエンジン デコード解像度」

例 > 4K シリーズ (最大ビデオエンジン デコード解像度 = 3840x2160+1920x1080) ・ ・ CIF(352x288) のみだと 12 まで。

※ 使用するコンテンツは、選択したビデオゾーンと同じかそれ以下の解像度である必要があります。

Enable 4.2.0 10-bit output : (4Kx42 model only)

4K60p or 4K50p の 4.2.0 10-bit 出力でディスプレイに接続する場合は有効にします。



Monitor orientation :

- Landscape : 横長表示
- Portrait - bottom on left : 左へ 90 度倒した縦表示
- Portrait - bottom on right : 右へ 90 度倒した縦表示

※ 横長のコンテンツを自動で縦表示に合わせる変換機能はありません。

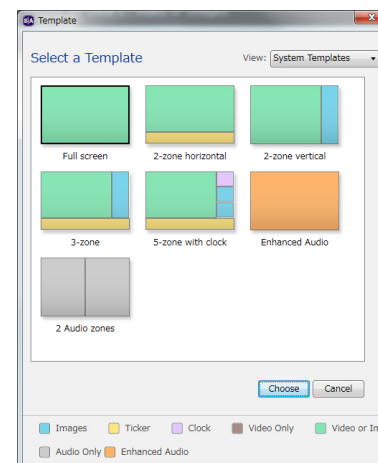
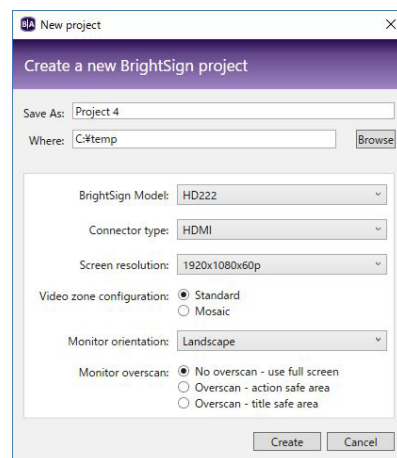
縦表示を使われる場合は、それに合わせた解像度のコンテンツをご用意ください。

※ HDx20, LSx22 は縦表示を行うことはできません。 ※ LS423 は動画の縦表示のみ行うことができません。

Monitor overscan :

- No overscan – use full screen : 画面全体に表示します（デフォルト設定）
- Overscan – action safe area : ほとんどのディスプレイと互換性のあるエリアに表示します。
- Overscan – title safe area : より小さい領域に表示します。

Create ボタンをクリックすると Template ウィンドウが表示します。テンプレートはあらかじめ複数のパターンが準備されていますが、設定後に "Layout" よりレイアウトを自由に変更できます。



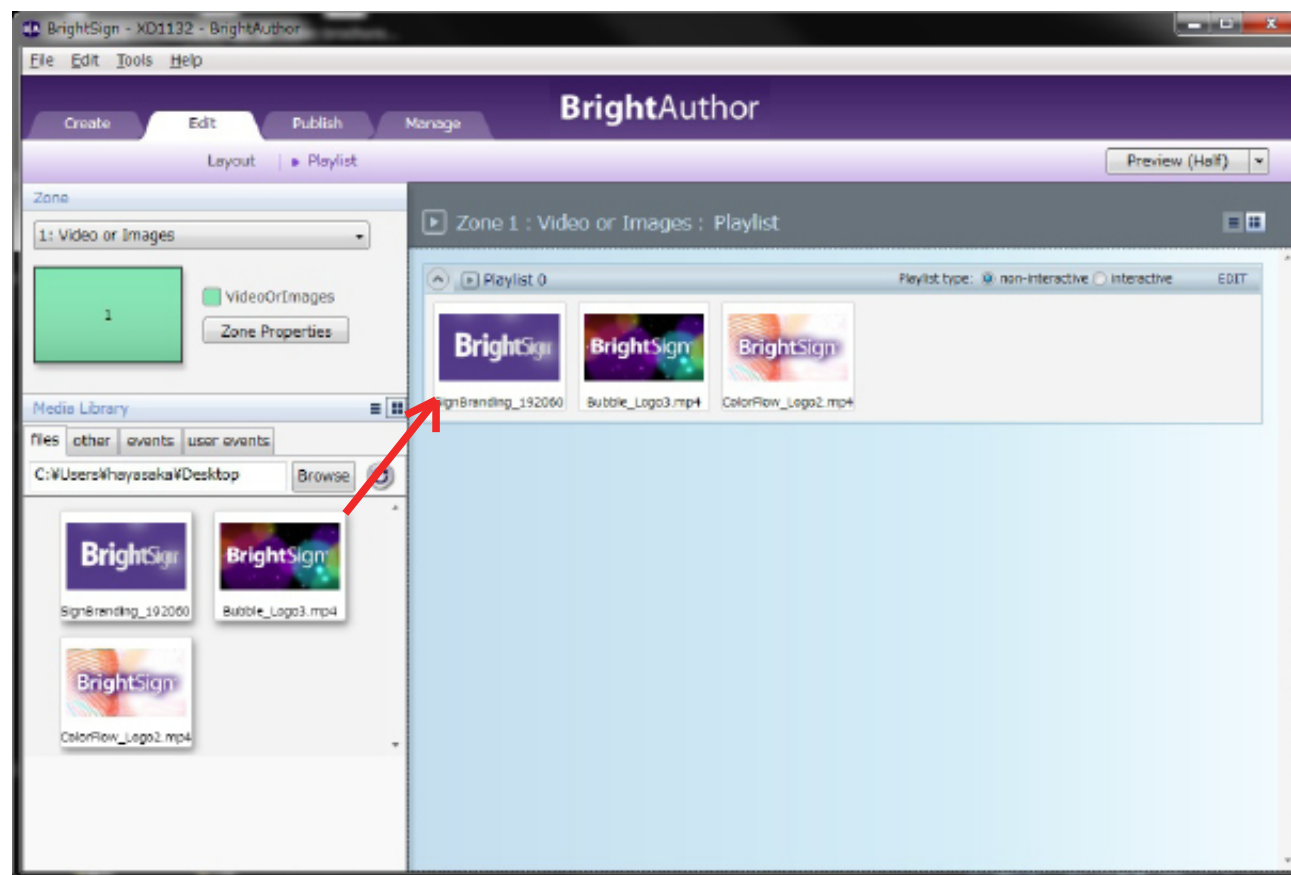


ループ再生の設定

ループ再生の設定

ループ再生の設定

『Media Library > files タブ』からコンテンツが保存されているフォルダーを選択します。フォルダーを選択後、Playlist の欄に表示させるコンテンツをドラッグします。コンテンツを配置した順番に再生されます。



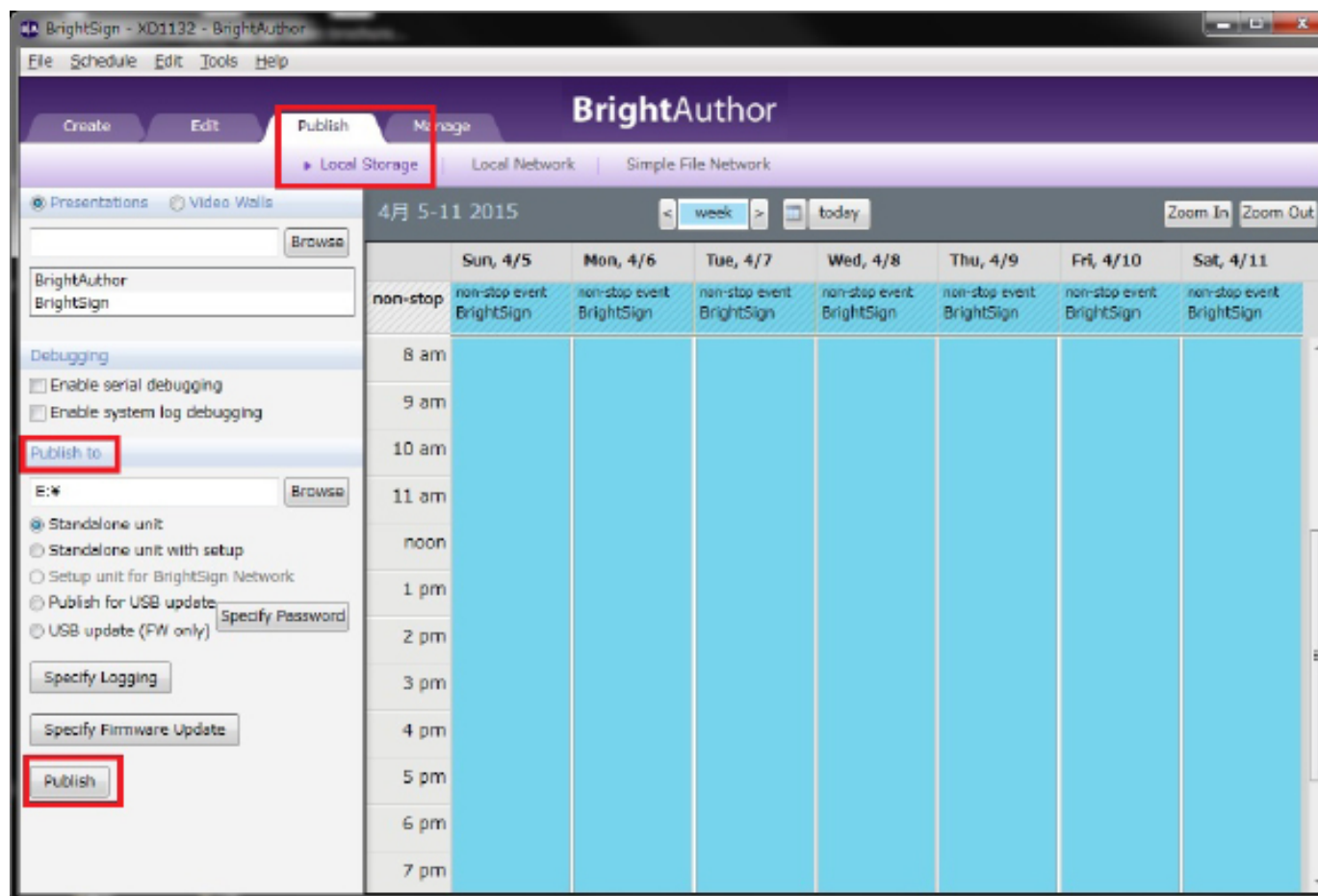


プレゼンテーションの Publish（書き出し）

プレゼンテーションの Publish（書き出し）

Publish 方法

Edit タブで作成したプレイリストを Publish します。Publish タブへ移動し Local Storage を選択します。Publish to から保存先を選択し、Publish ボタンをクリックすると作成されたファイルを書き出します。書き出したファイルを空の SD カードにすべてコピーし BrightSign に入れ電源を ON にすると作成したコンテンツを表示します。





時刻の設定

時刻の設定

BrightSign の時刻設定の方法は 3 通りあります。

1. ネットワーク経由 (Time Server を使用する)
2. ネットワーク経由 (Web Browser から設定する)
3. ローカル設定

1. ネットワーク経由 (Time Server を使用する)

BrightAuthor のメニューより、『Tools > Setup BrightSign Unit』 BrightSign Unit Setup ウィンドウを開きます。

Time zone : 『JST:Japanese Standard Time』を選択、 Time sever : お客様ご用意の Time sever を設定します。

外部への接続が可能でご用意が無い場合は、デフォルト (Time.brightsignnetwork.com) のままご利用ください。

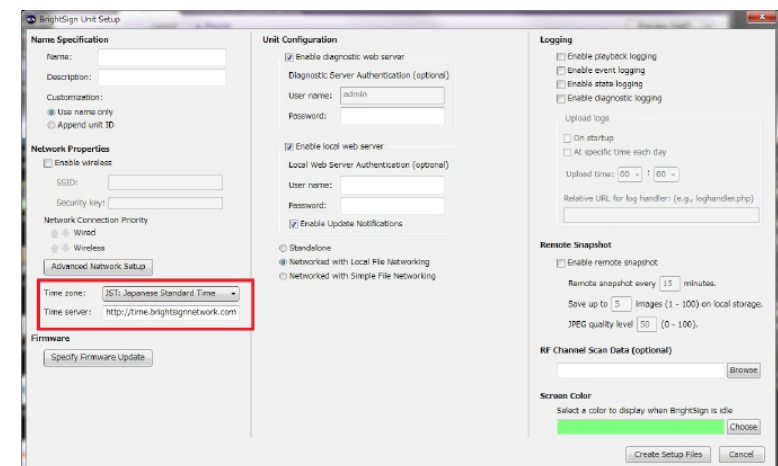
Unit Configuration (中央) の項目でご利用になる機能 (Standalone, Local File Networking など) にチェックを入れます。

Create Setup Files のボタンをクリックし SD カードに保存します。

* BrightSign ネットワークに IP アドレスを指定する場合は、「Advanced Network Setup」から IP アドレスを設定します。

BrightSign を Network に接続しておき、SD カードを BrightSign に挿入し電源を ON にすると時刻の設定を行います。

設定後 Standalone の場合のみ SD カードを抜きます。

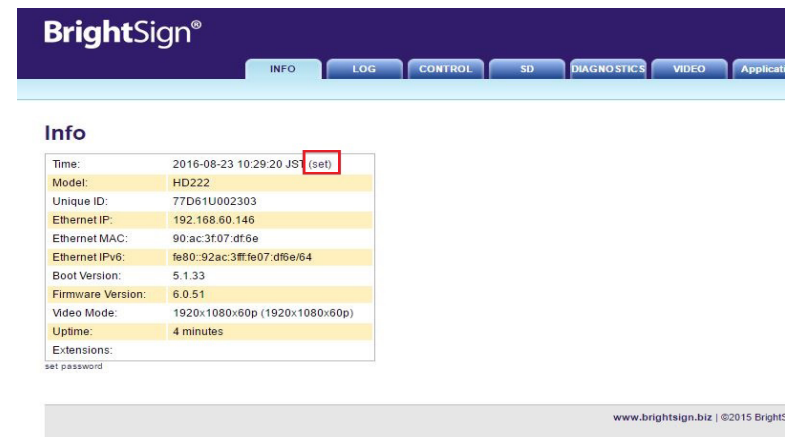


2. ネットワーク経由 (Web Browser から設定する)

※ファームウェア 5.1.54 以上が対象です。

Web Browser のアドレスバーに BrightAuthor で設定した IP アドレスを入力し BrightSign の Infomation 画面を表示します。

時間表示の横にある [set] をクリックします。



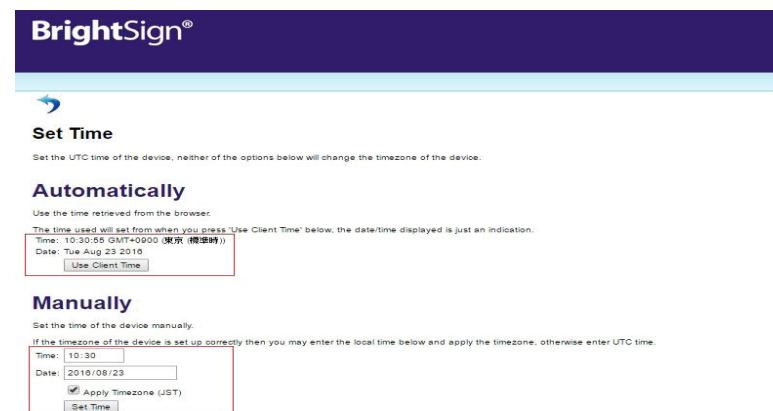
次に Set Time 画面にて時間を設定します。

- Automatically

'Use Client Time' ボタンを押すと、その上に表示されているパソコンの日時が反映されます。(タイムゾーンは反映されません)

- Manually

Time/Date に任意の日時を設定し、'Set Time' ボタンを押します。



3. ローカル設定

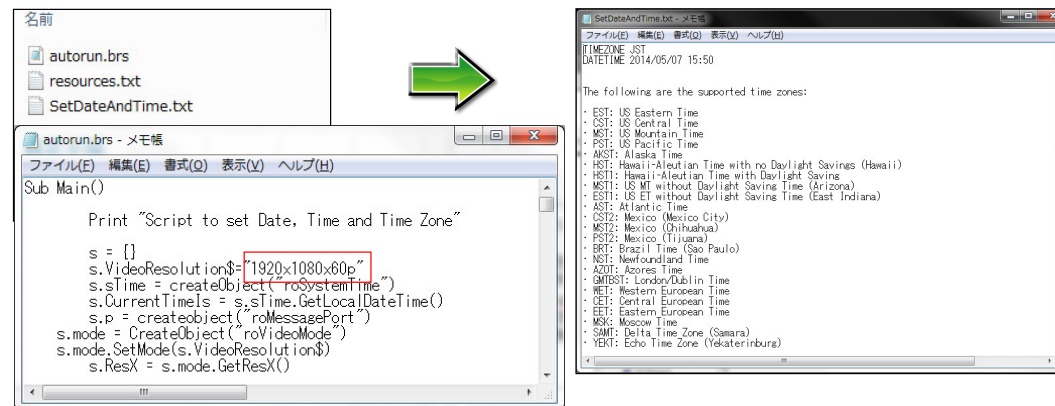
始めに内部メモリーの情報クリアにします。DVD に収録している Factory Default settings フォルダーを開き autorun.brs ファイルを、空の SD カードにコピーします。BrightSign に SD カードを挿入し起動します。内部メモリーの情報クリアになると、BrightSign が再起動します。次に時間設定を行います。SetDateTime フォルダーを開き全てのファイルを空の SD カードにコピーします。SetDateAndTime.txt をメモ帳で開きます。TIMEZONE に JST、DATETIME に設定する日時を入力し保存します。

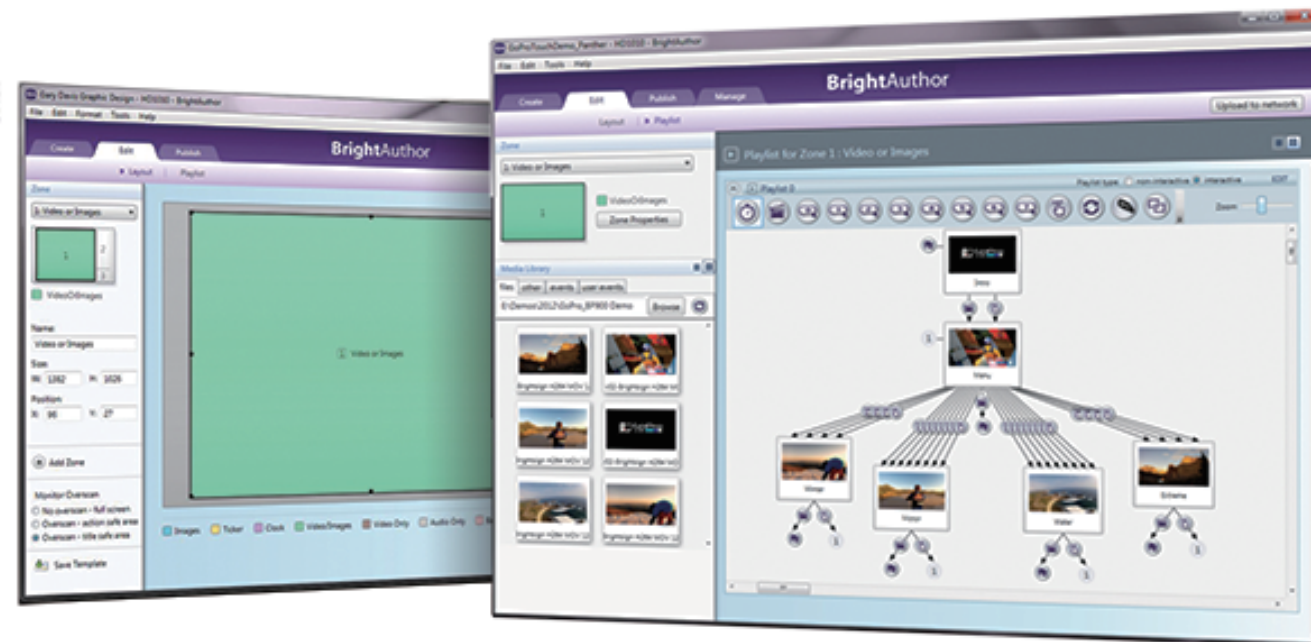
* 接続するモニターが 1920x1080x60p をサポートしていない場合は、autorun.brs をメモ帳などで開き 6 行目赤枠の解像度を BrightSign の各モデルが対応している解像度に修正します。

BrightSign サポート解像度

<http://support.brightsign.biz/entries/275113-What-video-output-resolutions-are-supported-by-BrightSign-players->

BrightSign に SD カードを挿入し起動させます。接続しているモニターに設定した日時が表示されますので、そのままの状態 で 4 時間以上電源を入れておきます (内蔵バッテリー充電の為)。4 時間以上経過後、SD カードを抜きます。



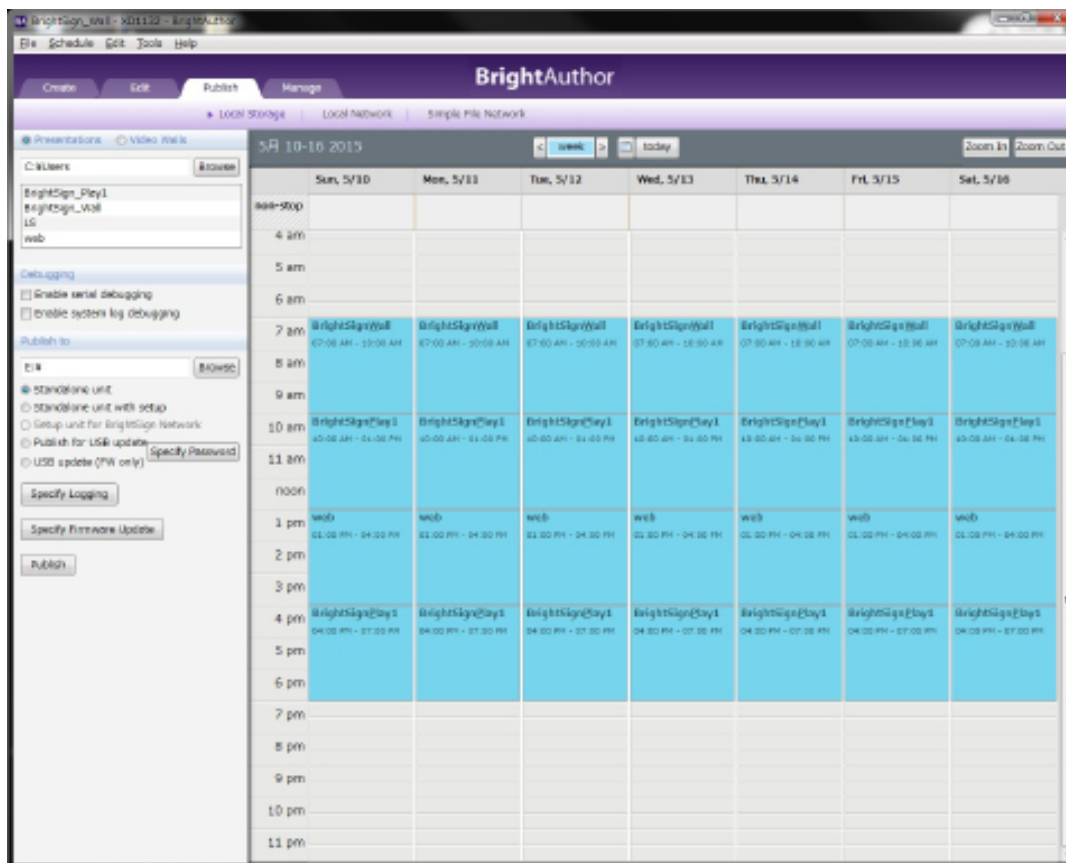
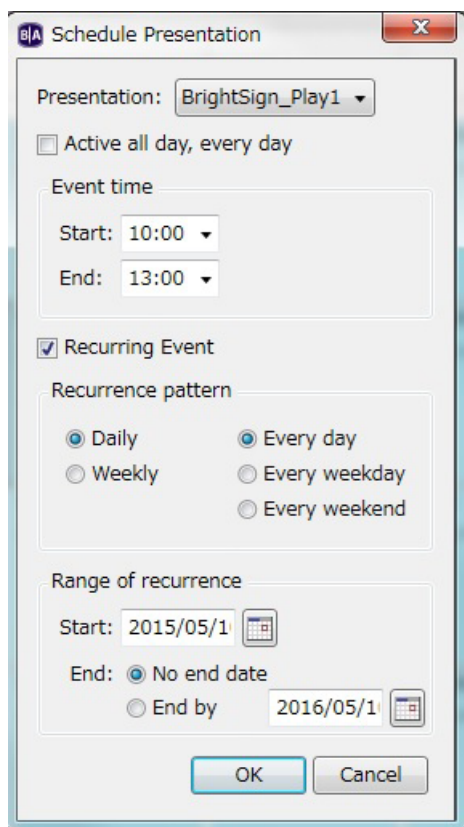


スケジュールの設定

スケジュールの設定

スケジュールの設定

Publish（書き出し）のタブでスケジュールの設定が行えます。スケジュール欄をダブルクリックすると Schedule Presentation ウィンドウが開きますので、Presentation から表示させるコンテンツを選択します。Active all day, every day のチェックを外すと Event time で Presentation を表示する時間を選択し設定します。作成したスケジュールは『Schedule > Save』で保存します。





タッチイベントの設定

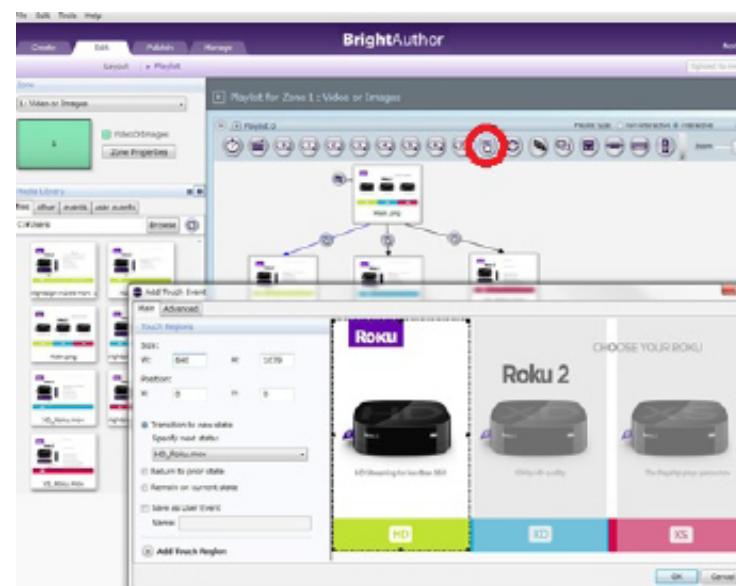
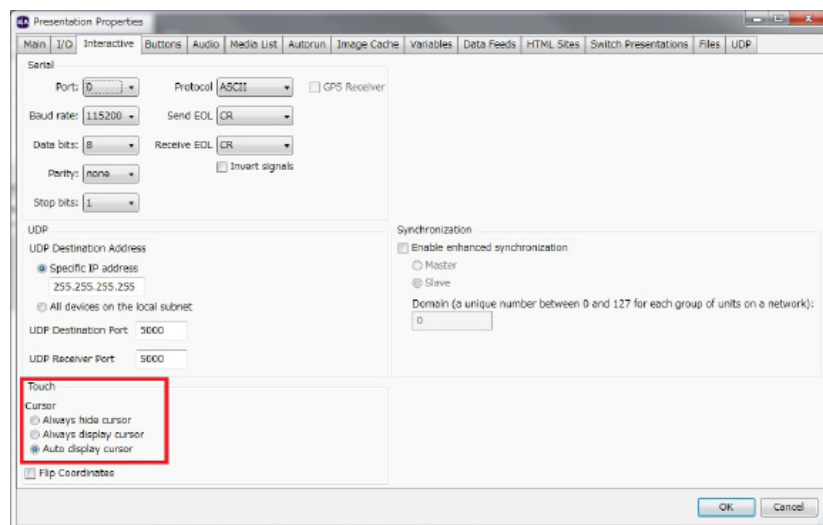
タッチイベントの設定

カーソルの表示・非表示の設定

BrightAuthor のメニューより、『File > Presentation Properties > Interactive』Presentation Properties ウィンドウを開きます。Touch Cursor の項目でカーソルの表示・非表示の設定を行います。設定完了後 OK をクリックし Presentation Properties ウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面から 3 つの映像に分岐しています。使用する Touch イベントをクリックし、待機の画面から選択するコンテンツまで繋がります。Add Touch Event ウィンドウが開きます。グリッドで選択する範囲を指定し、OK ボタンをクリックしウィンドウを閉じます。





シリアル制御の設定

シリアルの設定

シリアルの初期設定

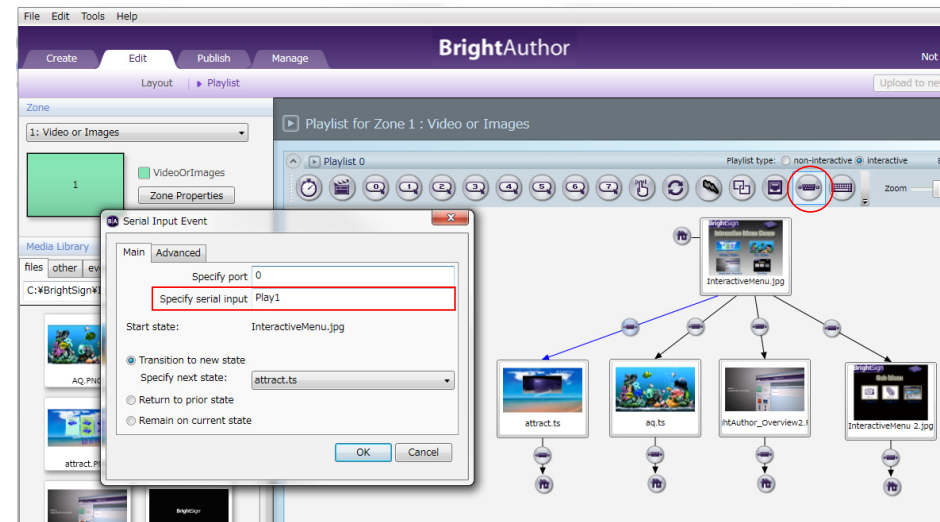
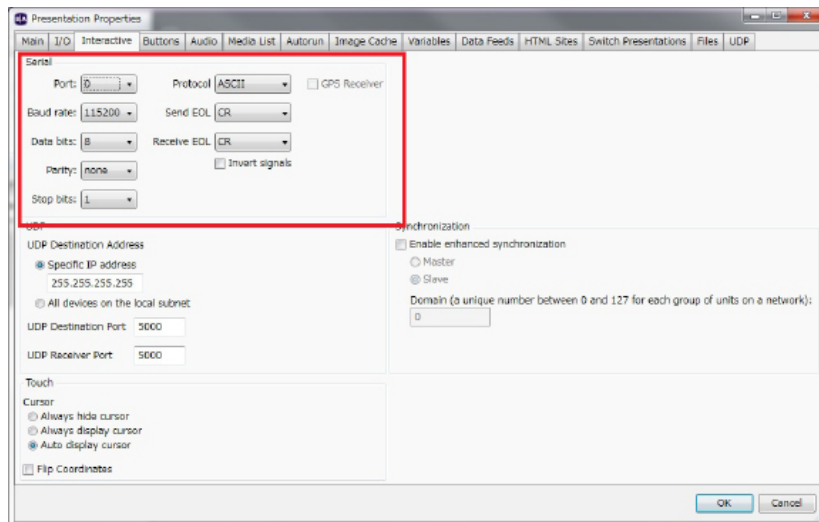
BrightAuthor のメニューより、『File > Presentation Properties > Interactive』Presentation Properties ウィンドウを開きます。この項目でシリアルの初期設定を行います。設定完了後 OK をクリックし Presentation Properties ウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面からシリアルの信号を受けて 4 つの映像に分岐しています。シリアルイベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋がります。Serial Input Event ウィンドウが開きますので、Specify serial input の欄に任意の文字を入力します。

＊ BrightSign にはプロトコル表がありません。BrightAuthor で任意の文字を設定できます。

BrightSign からシリアル信号を送る場合は Serial Input Event ウィンドウの『Advanced > Add Command > Send』より設定します。プレイリストのコンテンツをダブルクリックして Media Properties ウィンドウから設定できます。





UDP 制御の設定

UDP の設定

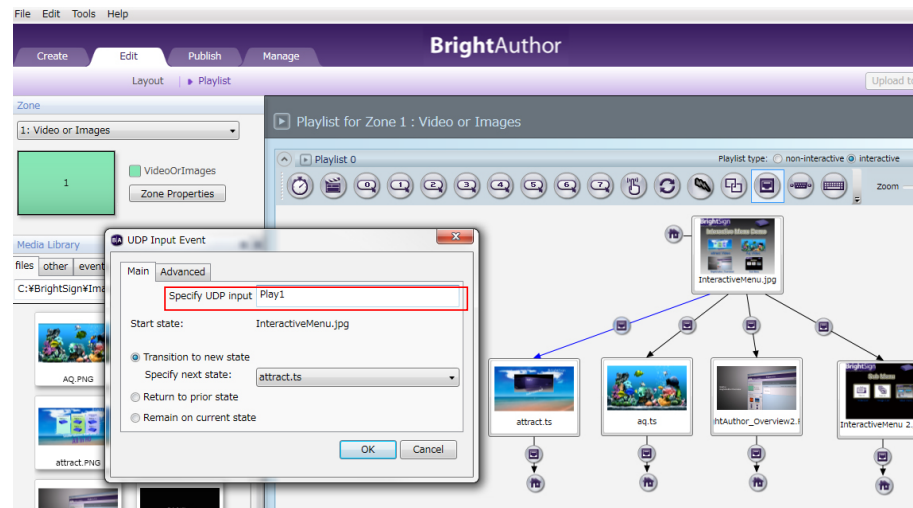
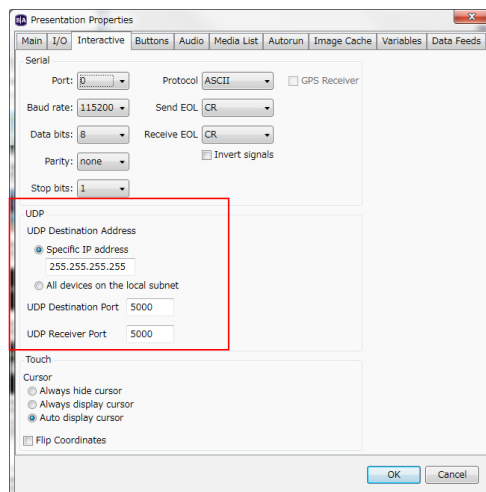
UDP の初期設定

BrightAuthor のメニューから、『File > Presentation Properties > Interactive』Presentation Properties ウィンドウを開きます。この項目で UDP の初期設定を行います。設定完了後 OK をクリックし Presentation Properties ウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面から UDP の信号を受けて 4 つの映像に分岐しています。UDP イベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋がります。UDP Input Event ウィンドウが開きますので、Specify UDP input の欄に任意の文字を入力します。

＊ BrightSign をネットワーク機器と接続すると、PC 以外の端末（iPhone,iPad 等）で操作ができます。





GPIO 制御の設定

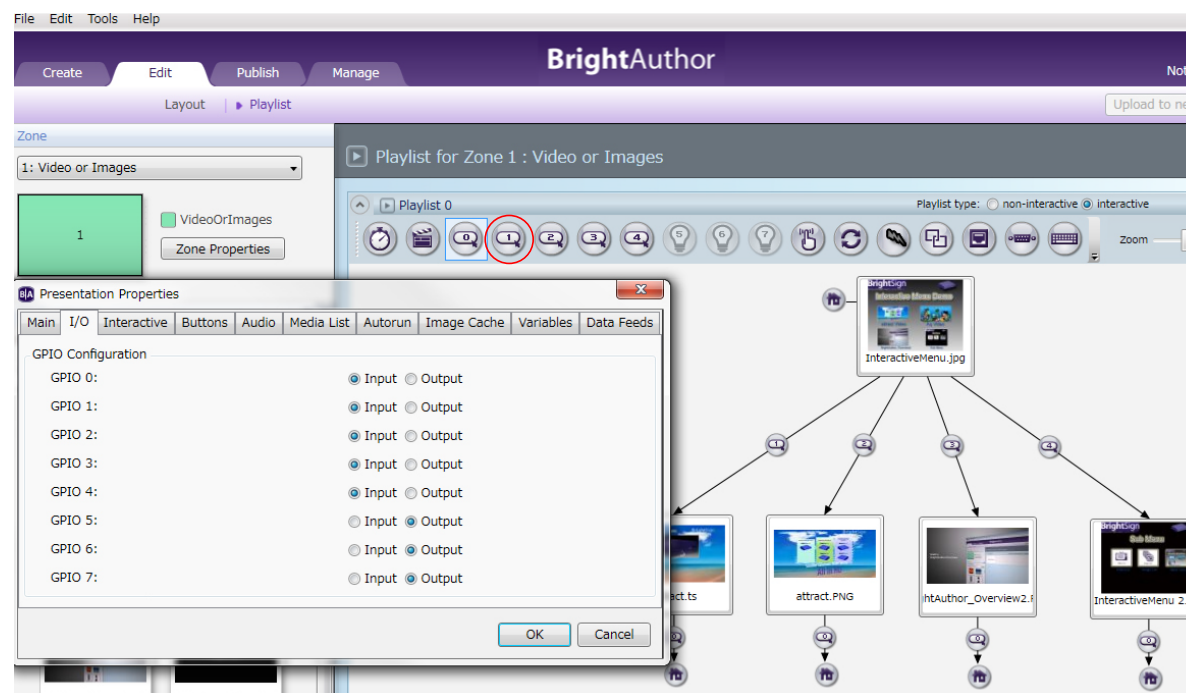
GPIO の設定

GPIO の Input/Output の設定

BrightAuthor のメニューより、『File > Presentation Properties > I/O』Presentation Properties ウィンドウを開きます。この項目で GPIO の Input/Output の設定を行います。設定完了後 OK をクリックし Presentation Properties ウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

下の図では待機画面から GPIO の信号を受けて 4 つの映像に分岐しています。使用する GPIO イベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋がります。Output の設定は GPIO イベントかコンテンツファイルをダブルクリックし、Event ウィンドウを開きます。『Advanced > Add Command > GPIO > On』より設定します。



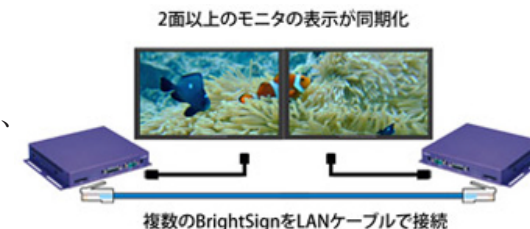


同期再生 (Synchronization)

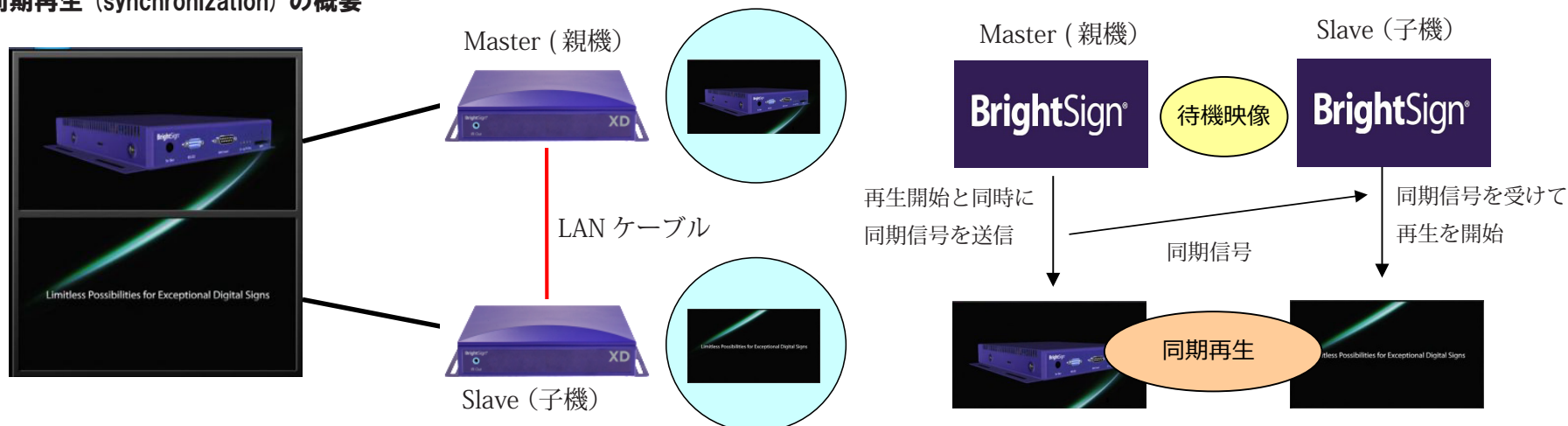
同期再生 (Synchronization)

はじめに

複数の BrightSign を LAN ケーブルで接続して再生を同期化し、複数のモニターの映像が繋がった一つの映像であるように表示できます。2 台の BrightSign を接続する場合は LAN ケーブルで直接接続し、3 台以上接続する場合は Hub を使用して接続します。



同期再生 (synchronization) の概要



複数のモニターで一つの繋がった映像のように表現する場合は、分割された映像素材を用意する必要があります。上図の例では、縦 2 画面にまたがって映像を表示するために上半分の映像と下半分の映像を作成し、Master (親機) の SD カードには上半分の映像素材を、Slave (子機) の SD カードには下半分の映像素材を保存して同期再生させます。

同期再生では 1 台を Master (親機) に、もう 1 台を Slave (子機) にして再生を行います。Master となる BrightSign は再生開始と同時にネットワーク経由で同期信号を送り、Slave となる BrightSign は同期信号を受けて再生を開始します。BrightSign の同期再生は、再生開始のタイミングを合わせる“同時再生”とも言えますが、同期のズレは最大 1.5 フレーム以内となります。

※メーカー推奨のフォーマット（解像度、ビットレート等）の素材の場合

同期再生の設定例

1 初期設定

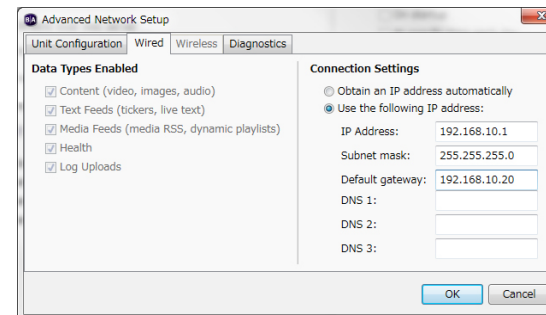
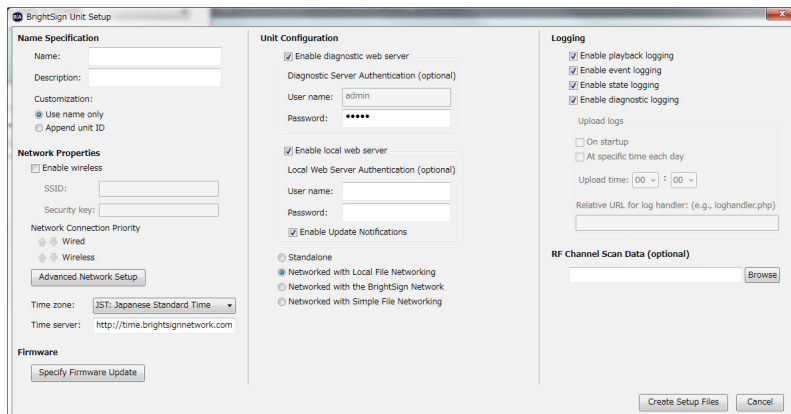
同期再生をする場合に BrightSign に異なる IP アドレスを設定する必要があります。同期再生の IP アドレスの設定例を簡単にご案内します。

a : Master unit の IP アドレス設定例

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setup ウィンドウが開きます。
2. Name Specification : (オプション)
 - a) Name と Description 欄に任意の文字を入力します。
 - b) Customization
 - ・ Use name only : Name Specification で設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specification で設定した名前と BrightSign の ID を表示
3. Network Properties : (オプション)
 - ・ Enable Wireless : BrightSign の Wireless モデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* Wireless モデルは BrightSign3 シリーズのみ使用可能です。(別途モジュールの購入が必要です。)
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択 (JST : Japanese Standard Time)
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定 (変更がなければデフォルトのまま)
4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - ・ Wired : BrightSign に IP address を設定します。Wired タブをクリックし、Use the following IP address にチェックを入れます。
下記は IP アドレスの設定例になります。* Data Types Enabled は Wireless を選択したときのみ選択できます。

例) IP Address : 192.168.10.1
Subnet mask : 255.255.255.0
Default gateway : 192.168.10.20

5. ファームウェアを更新する場合は Specify Firmware Update をクリックし、ファームウェアを選択します。(オプション)
6. Standalone にチェックを入れます。



b : Setup BrightSign Unit の保存

1. Create Setup Files を選択します。
2. フォルダー、SD カード、USB フラッシュドライブ (USB 対応モデルのみ) のいずれかを選択します。
3. b-2 選択後 OK をクリックします。
4. 電源アダプターを抜いて、BrightSign の電源をオフにします。BrightSign に b-3 で保存した SD カードまたはフラッシュデバイスを接続します。
5. 電源アダプターを接続して、BrightSign の電源をオンにします。
6. Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後 SD カードを抜きます。

NOTE：オプションと記載のある項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

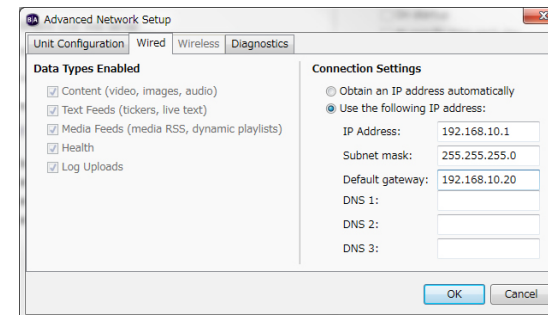
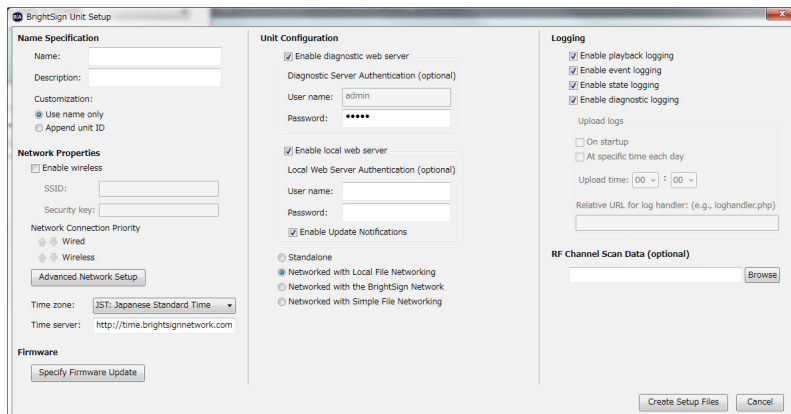
c : Slave unit の IP アドレス設定例

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setup ウィンドウが開きます。
2. Name Specification : (オプション)
 - a) Name と Description 欄に任意の文字を入力します。
 - b) Customization
 - Use name only : Name Specification で設定した名前のみ表示
 - Append unit ID : Name Specification で設定した名前と BrightSign の ID を表示
3. Network Properties : (オプション)
 - Enable Wireless : BrightSign の Wireless モデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
 - * Wireless モデルは BrightSign3 シリーズのみ使用可能です。(別途モジュールの購入が必要です。)
 - Time zone : タイムゾーンの選択 (JST : Japanese Standard Time)
 - Time server : タイムサーバーの設定 (変更がなければデフォルトのまま)
4. Advanced Network Setup :
 - Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。(オプション)
 - Wired : BrightSign に IP address を設定します。Wired タブをクリックし、Use the following IP address にチェックを入れます。下記は IP アドレスの例になります。* Data Types Enabled は Wireless を選択したときのみ選択できます。

例) IP Address : 192.168.10.2
Subnet mask : 255.255.255.0
Default gateway : 192.168.10.20

*** Master unit と異なる IP アドレスを設定してください。** 複数台 Slave unit がある場合は全て異なる IP アドレスを設定します。

5. ファームウェアを更新する場合は Specify Firmware Update をクリックし、ファームウェアを選択します。(オプション)
6. Standalone にチェックを入れます。



d : Setup BrightSign Unit の保存

1. Create Setup Files を選択します。
2. フォルダー、SD カード、USB フラッシュドライブ (USB 対応モデルのみ) のいずれかを選択します。
3. b-2 選択後 OK をクリックします。
4. 電源アダプターを抜いて、BrightSign の電源をオフにします。BrightSign に b-3 で保存した SD カードまたはフラッシュデバイスを接続します。
5. 電源アダプターを接続して、BrightSign の電源をオンにします。
6. Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後 SD カードを抜きます。

NOTE：オプションと記載のある項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

2 Master（親機）用プレゼンテーションの作成・保存

Master 用プレゼンテーションと Slave 用プレゼンテーションは別々に作成する必要があります。本書では 2 台同期の設定例を説明しています。Master と Slave のプレゼンテーションを各 1 つ作成していますが、3 台以上の同期の場合は、Slave の台数分だけプレゼンテーションを作成する必要があります。

以下の例で 2 台の同期設定を行います。2 台が静止画を 10 秒間表示した後に、動画を同期再生し、以後動画をループ再生します。動画再生を同期させるために、静止画を最初に 10 秒間表示するように設定しています。

（同時に電源投入しても 2 台の起動時間に差が生じるため、静止画を表示させることでタイミングを合わせています。）

使用イベント : 【Time Out】 【Media End】

使用コンテンツ :  blank.bmp ,  Attract.mpg

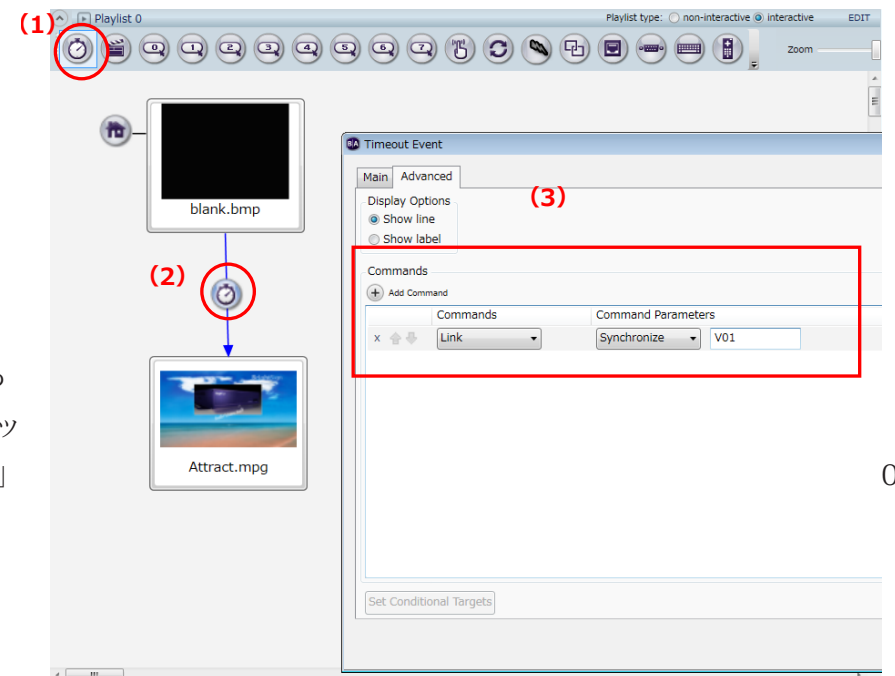
a : 基本アクションの作成

「blank.bmp」の表示時間と同期信号送信の設定をします。

はじめにプレイリストの作成画面で interactive にチェックを入れ、

「blank.bmp」と「Attract.mpg」を登録します。

1. 「blank.bmp」と「Attract.mpg」を Time Out Event アイコンで繋がめます。Time out Event アイコンをクリックして選択した後、登録した「blank.bmp」のサムネイルのファイル名をクリックしたままにすると、カーソルが指のマークに変化しますので、「Attract.mpg」へドラッグしてクリックを解除します。これで「blank.bmp」と「Attract.mpg」が Time out Event アイコンで繋がります。

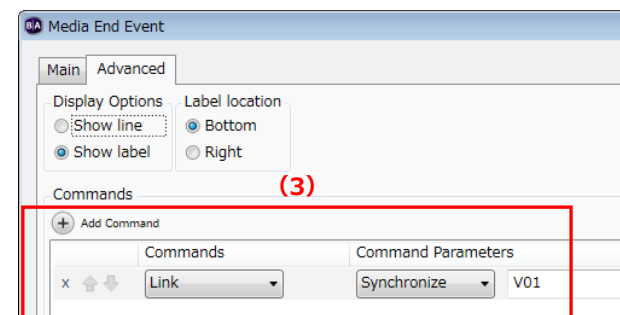
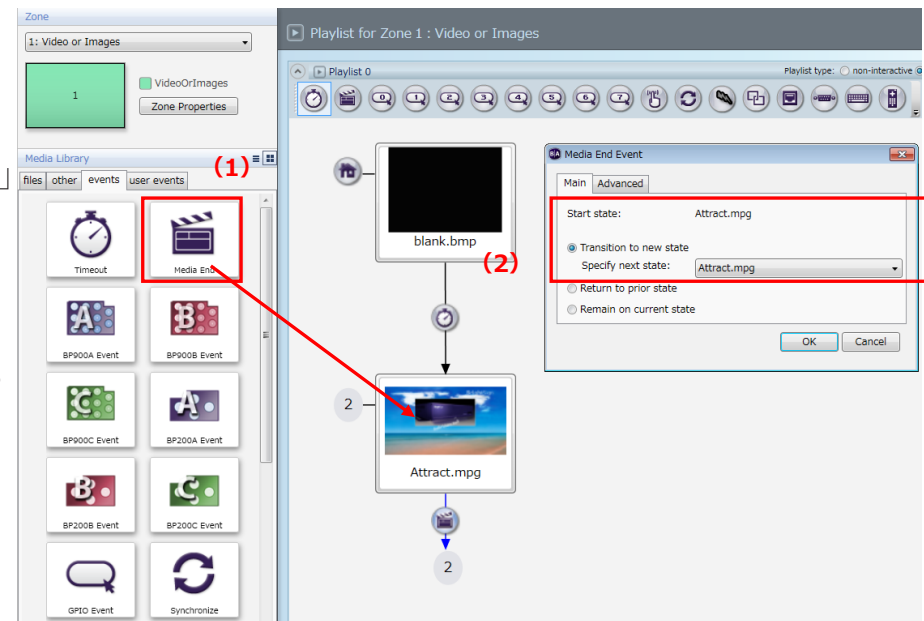


2. 「blank.bmp」と「Attract.mpg」を繋ぐ Time out Event アイコンをダブルクリックし、Specify timeout (seconds) に「10」と入力します。
(表示時間 10 秒を設定します。)
3. Advanced タブを選択し、+Add Command をクリックします。Commands から Link、Synchronize を選択し、Command Parameters に任意の文字を入力します。ここでは「V01」と入力します。OK をクリックして閉じます。(入力した文字「V01」が同期信号となります。)

b : リンクコマンドの設定

「Attract.mpg」のループ再生と同期信号送信の設定をします。

1. events タブの中にある Media End Event アイコンを「Attract.mpg」のサムネイルの上へドラッグ&ドロップします。
2. Media End Event 設定ウィンドウの Main タブで、Transition to new state Specify next state にチェックを入れ、選択ボックスから「Attract.mpg」を選択します。
3. Advanced タブを選択し、+Add Command をクリックします。Commands から Link、Synchronize を選択し、Command Parameters に任意の文字(キーワード)を入力します。ここでは「V01」と入力します。OK をクリックして閉じます。
※入力した文字「V01」が同期信号となります。



c : Publish (書き出し)

Publish タブを選択し、SD カードにプレイリストを Publish (書き出し) します。

3 Slave（子機）用プレゼンテーションの作成・保存

Master から同期信号を受けて再生を開始する Slave 用プレゼンテーションを作成します。

使用イベント : 【Synchronize】

使用コンテンツ : blank.bmp , Attract.mpg

a : Slave アクションの設定

プレイリストの作成画面で interactive にチェックを入れ、「blank.bmp」「Attract.mpg」を登録します。

1. 「blank.bmp」と「Attract.mpg」を Synchronize Event アイコンで繋がります。

2. Synchronize Event 設定ウィンドウが表示されるので Specify synchronization keyword に「V01」と入力します。

OK をクリックして閉じます。

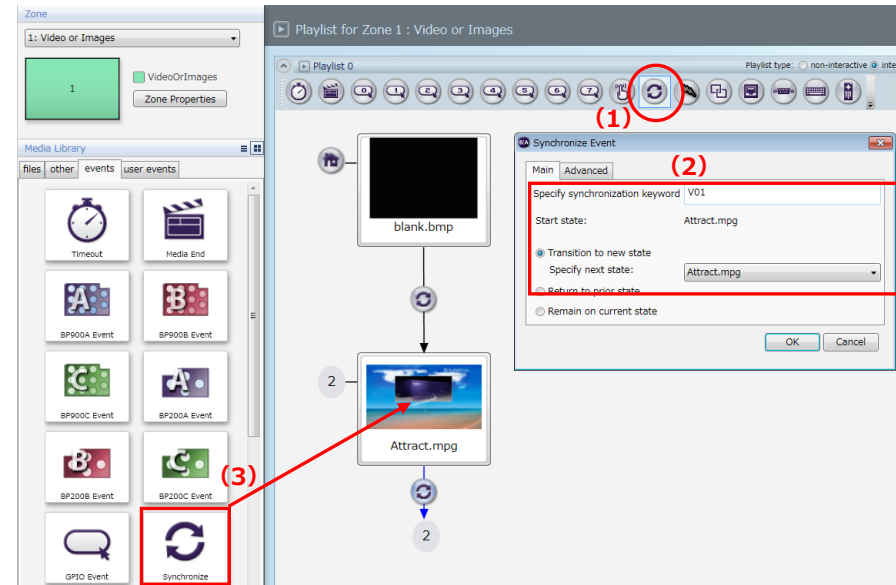
※ Master 用プレゼンテーションで設定した文字（キーワード）を入力します。

3. events タブの中にある Synchronize Event アイコンを「Attract.mpg」のサムネイルの上へドラッグ&ドロップします。

4. Synchronize Event 設定ウィンドウの Main タブで Specify synchronization keyword に「V01」と入力し、Transition to new state Specify next state にチェックを入れ、選択ボックスから「Attract.mpg」を選択します。OK をクリックして閉じます。

b : Publish（書き出し）

Publish タブを選択し、SD カードにプレイリストを Publish（書き出し）します。



4 同期再生の実行

Master 用プレゼンテーションが保存された SD カードを Master に、Slave 用プレゼンテーションが保存された SD カードを Slave に接続し、電源を入れます。電源は Master/Slave 同時に入れるか、Slave → Master の順に入れます。

Master 起動後、「blank.jpg」を 10 秒間表示した後、「Attract.mpg」の同期再生が始まります。



IP アドレスの設定

IP アドレスの設定

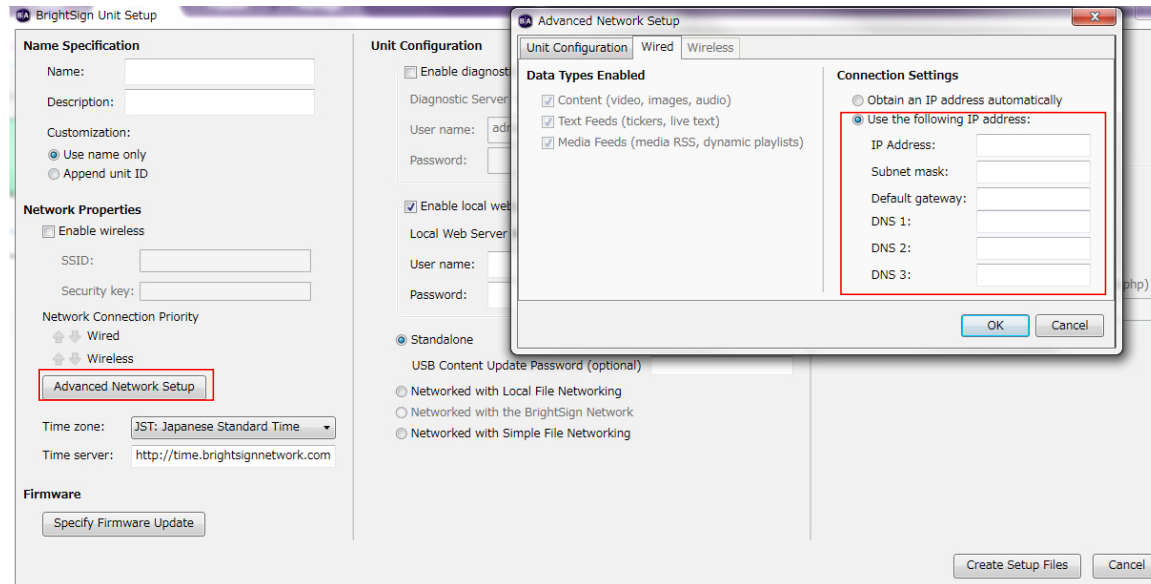
IP アドレスの設定

BrightSign は端末に IP アドレスを設定することができます。この機能はネットワーク配信時や同期再生の初期設定にも利用します。

IP アドレスの設定方法

ここではスタンドアロンで利用時の IP アドレスの設定方法をご案内します。

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setup ウィンドウが開きます。
2. Name Specification :
 - a) Name と Description 欄に任意の文字を入力します。
 - b) Customization
 - Use name only : Name Specification で設定した名前のみ表示
 - Append unit ID : Name Specification で設定した名前と BrightSign の ID を表示
3. Network Properties :
 - Enable Wireless : BrightSign の Wireless モデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* Wireless モデルは BrightSign3 シリーズのみ使用可能です。(別途モジュールの購入が必要です。)
 - Time zone : タイムゾーンの選択
 - Time server : タイムサーバーの設定
4. Advanced Network Setup :
 - Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - Wired : BrightSign に IP address を設定します。Wired タブをクリックし、Use the following IP address にチェックを入れます。
* Data Types Enabled は Wireless を選択したときのみ選択できます。
5. ファームウェアを更新する場合は Specify Firmware Update をクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Standalone にチェックを入れます。



7. Setup BrightSign Unit の保存

- a) Create Setup Files を選択します。
- b) フォルダー、SD カード、USB フラッシュドライブ（USB 対応モデルのみ）のいずれかを選択します。
- c) 7-b 選択後 OK をクリックします。
- d) 電源アダプターを抜いて、BrightSign の電源をオフにします。BrightSign に 7-c で保存した SD カードまたはフラッシュドライブを接続します。
- e) 電源アダプターを接続して、BrightSign の電源をオンにします。
- f) Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後 SD カードを抜きます。

NOTE：2,3,5 の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。



ネットワーク機能の紹介

ネットワークソリューション

ネットワークの種類

BrightSign シリーズのネットワーク対応モデルでは 3 種類のネットワークソリューションを利用できます。

1. BrightSign Local File Networking

ローカルネットワーク環境に BrightAuthor をインストールした PC と BrightSign を接続すると、PC からプッシュ形式でプレゼンテーションを BrightSign へ送信し SD カード内のデータを更新します。(→ 39p)

2. BrightSign Simple File Networking

Web サーバー上に、プレゼンテーションを保存する Web フォルダを準備します。BrightAuthor から Web フォルダへプレゼンテーションをアップロードし、BrightSign は設定した間隔で Web フォルダにアクセスします。プレゼンテーションや設定・スケジュールに更新があった場合に、BrightSign はダウンロードを行い SD カード内のデータを更新します。(→ 44p)

＊ Web サーバーは別途お客様にてご用意ください。

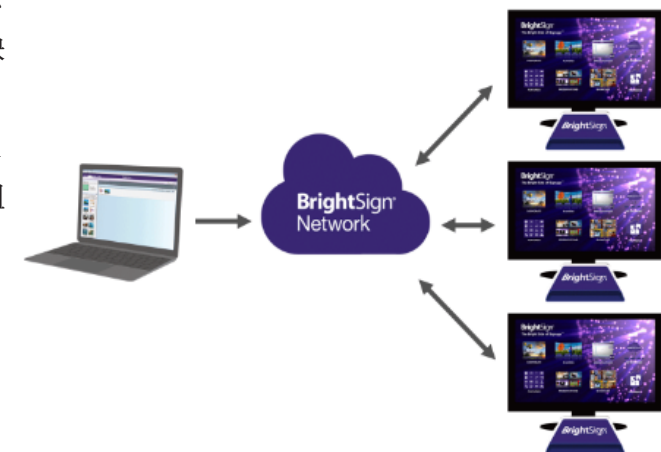
3. BrightSign Network .jp

BrightSign を簡単に管理できる有料のクラウド型ネットワークソリューションサービスです。遠隔地からコンテンツの更新やスケジュール管理はもちろん、稼働状態や出力映像のチェック、ファームウェアのアップグレードを行うことが可能です。

また、複数の BrightSign をグループに分けて管理したり、コンテンツ配信・BrightSign 管理・スケジュール出力といった各担当分野ごとに複数のユーザー登録をすることで組織的なデジタルサイネージ管理を実現します。

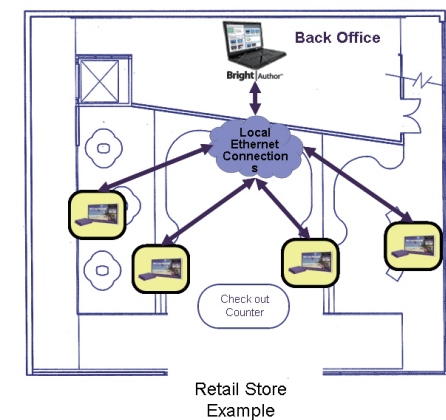
テストアカウントは下記のアドレスよりお申込みください。

<https://jimgs.jp/inquiry/brightsigntestaccounts.html>





Local File Networking の設定



Local File Networking の設定

初期設定

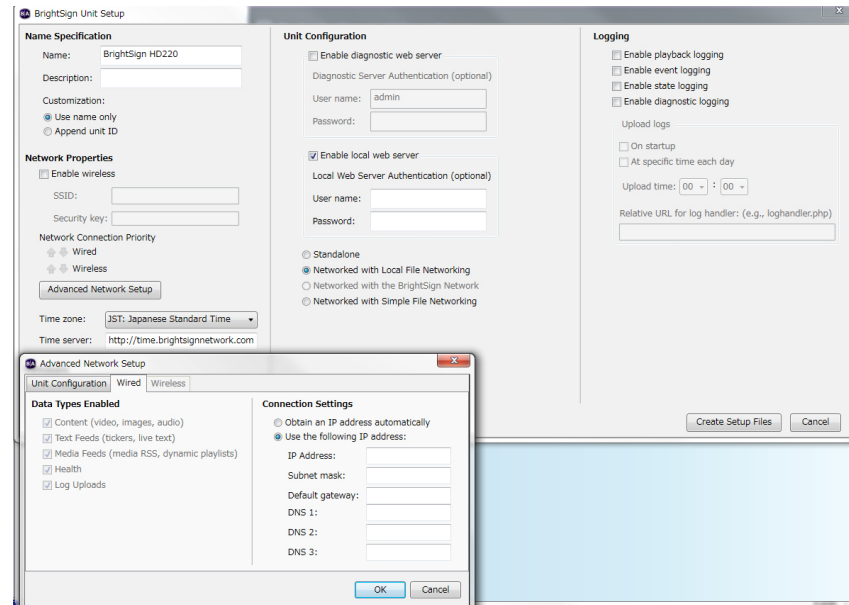
BrightAuthor の初期設定では、Local Network のタブが表示されません。メニューバーから、『Edit > Preferences > Networking』を選択します。
Enable BrightSign Local Networking にチェックを入れます。

＊ Enable Bonjour にチェックを入れると Publish 画面で自動的にローカルネットワーク上にある BrightSign を認識します。

Bonjour は Apple 社のプロトコルです。(iTunes をインストールすることで Bonjour も同時にインストールされます)

BrightSign ユニットの登録

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setup ウィンドウが開きます。
2. Name Specification :
 - a) Name と Description 欄に任意の文字を入力します。
 - b) Customization
 - ・ Use name only : Name Specification で設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specification で設定した名前と BrightSign の ID を表示
3. Network Properties :
 - ・ Enable Wireless : BrightSign の Wireless モデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
 - ＊ Wireless モデルは BrightSign3 シリーズのみ使用可能です。(別途モジュールの購入が必要です。)
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定
4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - ・ Wired : BrightSign に IP address を設定します。Wired タブをクリックし、IP address を自動設定するには Obtain an IP address automatically、任意に設定するには Use the following IP address にチェックを入れます。
 - ＊ Data Types Enabled は Wireless を選択したときのみ選択できます。



5. ファームウェアを更新する場合は Specify Firmware Update をクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Unit Configuration :
 - a) Enable diagnostic web server : diagnostic を有効にします。パスワードを設定することができます。
 - b) Enable local web server : チェックを入れるとパスワード設定することができます。
7. Networked with Local File Networking にチェックを入れます。
8. Logging : Logging を有効にするにはチェックボックスのいずれかにチェックをし、アップロード設定を指定します。
 - a) Enable playback logging : プレイリストが再生された際にログを作成します。
 - b) Enable event logging : イベントのログを作成します。
 - c) Enable state logging : 現在と最後の state name、timestamps や media タイプのログを作成します。
 - b) Enable diagnostic logging : timestamps、firmware、Script バージョンやプレゼンテーションのログを作成します。

9. Setup BrightSign Unit の保存

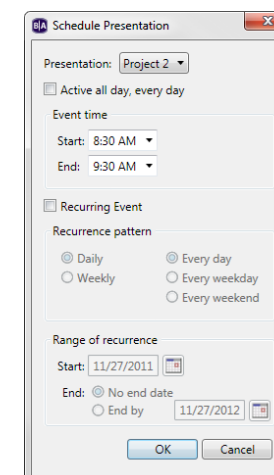
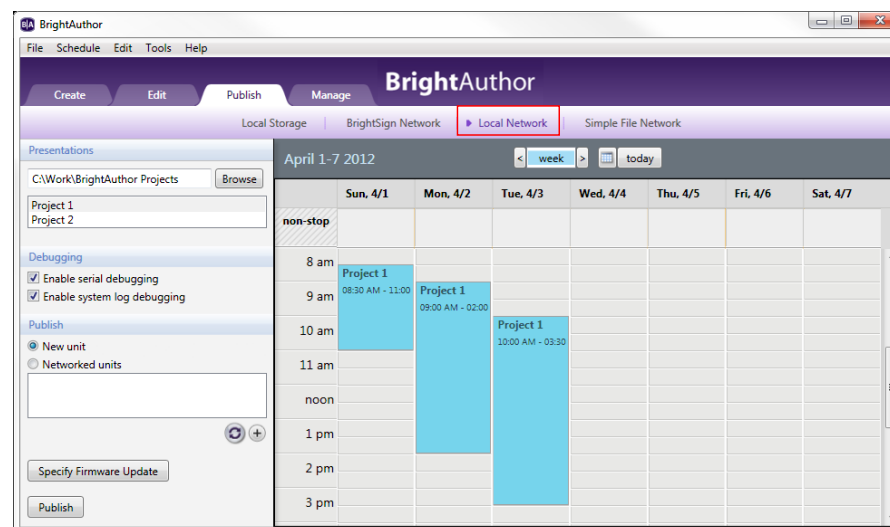
- a) Create Setup Files を選択します。
- b) フォルダー、SD カード、USB フラッシュドライブ（USB 対応モデルのみ）
- c) 9-b 選択後 OK をクリックします。
- d) 電源アダプターを抜いて、BrightSign の電源をオフにします。BrightSign に 9-c で保存した SD カードまたはフラッシュデバイスを接続します。
- e) 電源アダプターを接続して、BrightSign の電源をオンにします。

*設定後、SD カードまたはフラッシュカードは BrightSign から抜かないでください。SD カードまたはフラッシュカードを抜くと BrightAuthor から Publish(書き出し)したプレゼンテーションファイルを保存できません。

NOTE：5,6,8 の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

プレゼンテーションの Publish（書き出し）

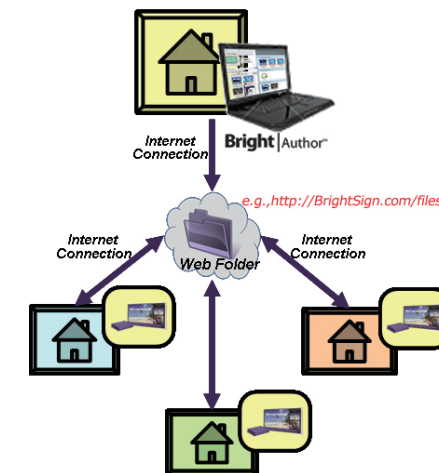
Edit タブで作成したプレゼンテーションを BrightSign ユニットに Publish（書き出し）します。



1. プレゼンテーションファイルを保存します。
メニューより『File > Save... As.』を選択します。
2. Publish タブへ移動します。
 - a) 画面左上の Publish タブを選択します。
 - b) Local Network を選択します。
 - c) Presentation の下の Browse を選択し、プレゼンテーションが保存されているフォルダーを選択します。
3. Publish するプレゼンテーションのスケジュールを作成します。
 - a) 保存されている Presentation のリストから、Presentation を選択します。
 - b) Presentation をスケジュール欄にドラッグします。
 - c) スケジュール欄をダブルクリックして、1 日のスケジュールを調整します。スケジュール欄をダブルクリックすると、Schedule Presentation ウィンドウが開きます。ここではプレゼンテーションを再生する日時を設定します。
 - b) OK を選択するとスケジュール欄に設定した内容が反映されます。
 - e) 他のプレゼンテーションを設定する場合は b-d の作業を繰り返します。
4. Debugging、Log、Firmware の設定。この項目は必要な場合のみ使用します。
5. プレゼンテーションを Publish する。
 - a) Publish の下の項目で Publish 先を選択します。
 - ・新しい BrightSign を追加するには、New unit を選択します。＋ボタンをクリックすると Add BrightSign Unit ウィンドウが開きます。追加する BrightSign の IP アドレスを入力し、OK をクリックします。
 - ・すでに BrightSign が追加されている場合は、Networked unit を選択しリストから Publish する端末を選びます。
 - b) Publish をクリックします。Complete ウィンドウが表示されたら OK をクリックします。



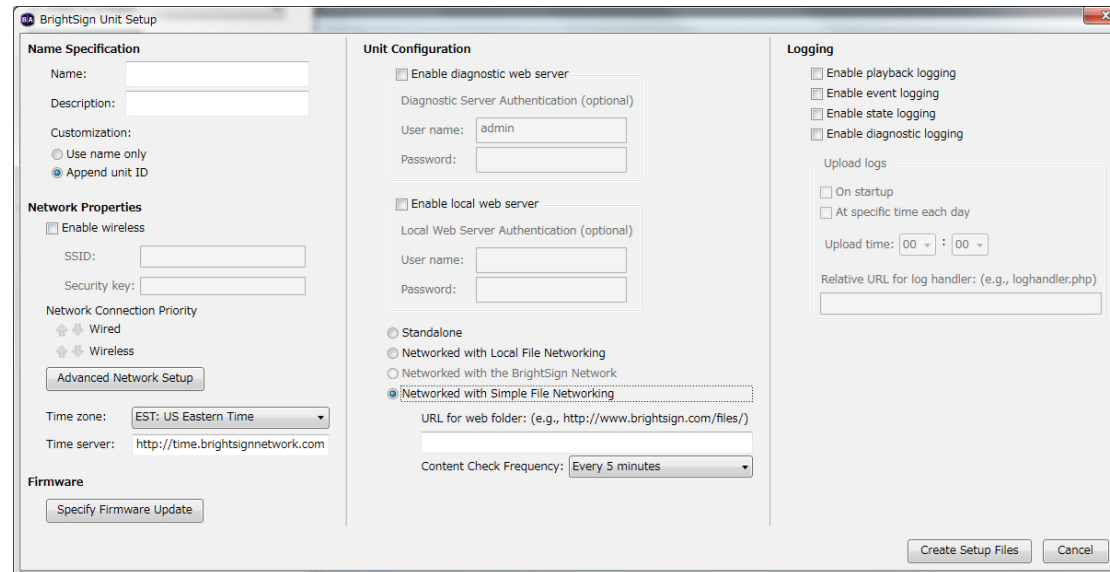
Simple File Networking の設定



Simple File Networking の設定

BrightSign ユニットの登録

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setup ウィンドウが開きます。
2. Name Specification :
 - a) Name と Description 欄に任意の文字を入力します。
 - b) Customization
 - Use name only : Name Specification で設定した名前のみ表示
 - Append unit ID : Name Specification で設定した名前と BrightSign の ID を表示
3. Network Properties :
 - Enable Wireless : BrightSign の Wireless モデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* Wireless モデルは BrightSign3 シリーズのみ使用可能です。(別途モジュールの購入が必要です。)
 - Time zone : タイムゾーンの選択
 - Time server : タイムサーバーの設定
4. Advanced Network Setup :
 - Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - Wired : BrightSign に IP address を設定します。Wired タブをクリックし、IP address を自動設定するには Obtain an IP address automatically、任意に設定するには Use the following IP address にチェックを入れます。
* Data Types Enabled は Wireless を選択したときのみ選択できます。
5. ファームウェアを更新する場合は Specify Firmware Update をクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Unit Configuration :
 - a) Enable diagnostic web server : diagnostic を有効にします。パスワードを設定することができます。
 - b) Enable local web server : チェックを入れるとパスワード設定することができます。



7. Networked with Simple File Networking にチェックを入れます。URL for web folder: に BrightSign がプロジェクトを確認する Web フォルダーの URL を記入します。Content Check Frequency: で Web フォルダーを確認するタイミングを設定します。
8. Logging：Logging を有効にするにはチェックボックスのいずれかにチェックをし、アップロード設定を指定します。
 - a) Enable playback logging：プレイリストが再生された際にログを作成します。
 - b) Enable event logging：イベントのログを作成します。
 - c) Enable state logging：現在と最後の state name、timestamps や media タイプのログを作成します。
 - d) Enable diagnostic logging：timestamps、firmware、Script バージョンやプレゼンテーションのログを作成します。
9. Setup BrightSign Unit の保存
 - a) Create Setup Files を選択します。
 - b) フォルダー、SD カード、USB フラッシュドライブ（USB 対応モデルのみ）のいずれかを選択します。
 - c) 9-b 選択後 OK をクリックします。
 - d) 電源アダプターを抜いて、BrightSign の電源をオフにします。BrightSign に 9-c で保存した SD カードまたはフラッシュドライブを接続します。

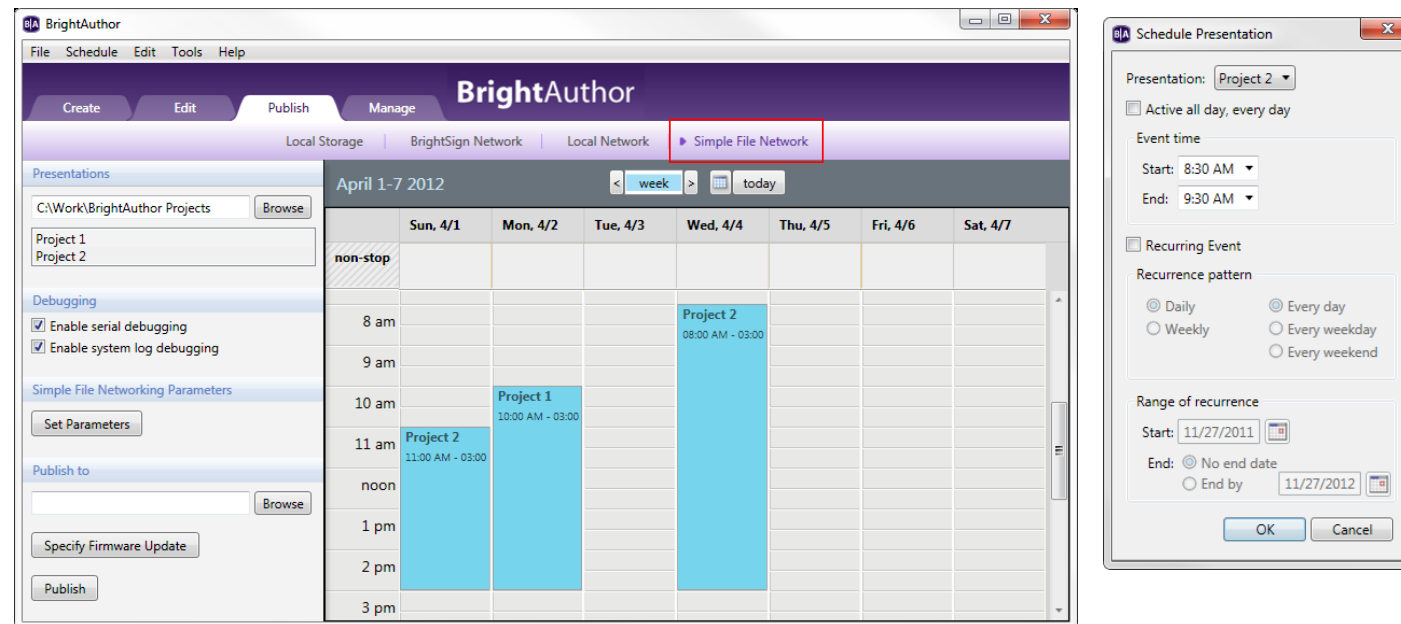
e) 電源アダプターを接続して、BrightSign の電源をオンにします。

*設定後、SD カードまたはフラッシュカードは BrightSign から抜かないでください。SD カードまたはフラッシュカードを抜くとプレゼンテーションファイルをダウンロードできません。

NOTE：2,4,5,6,8 の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

プレゼンテーションの Publish（書き出し）

Edit タブで作成したプレゼンテーションを Publish（書き出し）します。



1. プレゼンテーションファイルを保存します。
メニューより『File > Save... As.』を選択します。
2. Publish タブへ移動します。
 - a) 画面左上の Publish タブを選択します。
 - b) Simple File Network を選択します。
 - c) Presentation の下の Browse を選択し、プレゼンテーションが保存されているフォルダーを選択します。

3. Publish するプレゼンテーションのスケジュールを作成します。
 - a) 保存されている Presentation のリストから、Presentation を選択します。
 - b) Presentation をスケジュール欄にドラッグします。
 - c) スケジュール欄をダブルクリックして、1 日のスケジュールを調整します。スケジュール欄をダブルクリックすると、Schedule Presentation ウィンドウが開きます。ここではプレゼンテーションを再生する日時を設定します。
 - d) OK を選択するとスケジュール欄に設定した内容が反映されます。
 - e) 他のプレゼンテーションを設定する場合は b-d の作業を繰り返します。
4. Debugging、Log、Firmware の設定。この項目は必要な場合のみ使用します。
5. プレゼンテーションを Publish する。
 - a) Publish to の Browse から Publish 先を選択します。
 - b) Publish をクリックします。Complete ウィンドウが表示されたら OK をクリックします。

NOTE：Web フォルダーにファイルを転送する場合は、お使いの PC 上のフォルダーに Publish し FTP ソフトウェアなどを使用しアップロードする必要があります。



コンテンツファイルの変更

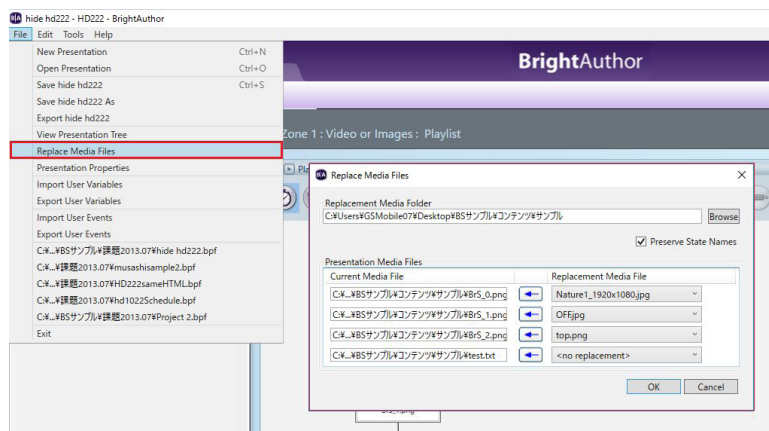
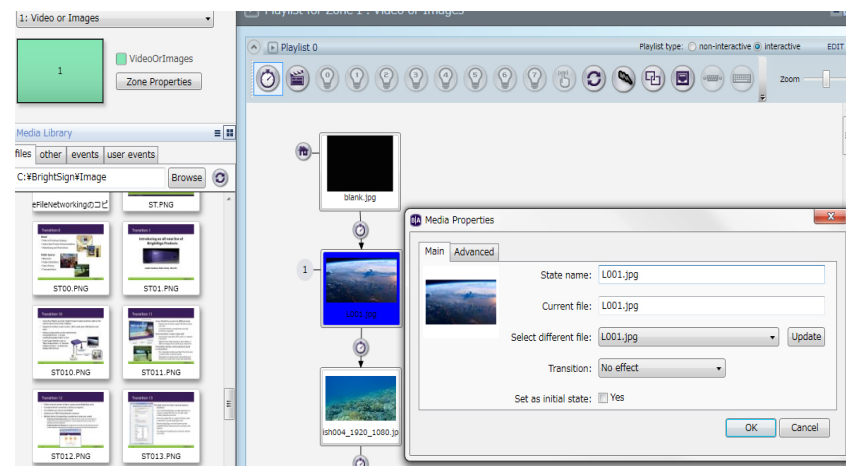
コンテンツファイルの変更

コンテンツファイルの変更

BrightAuthor で作成したプレイリストの設定を変更せずにコンテンツだけを変更することができます。

個別でのコンテンツファイル変更例

プレイリスト上のコンテンツファイルをダブルクリックすると、Media Properties ウィンドウが開きます。Select different file から変更するコンテンツを選び、Update ボタンをクリックします。Select different file には Media Library で選択されているフォルダー内のコンテンツを表示します。



コンテンツファイルの一括変更

メニュー『File > Replace Media Files』を使用するとプレゼンテーション内のコンテンツを一括で変更することができます。Replacement Media Folder にて置き換えるファイルが保存されているフォルダーを選択し、Replacement Media Files のプルダウン表示からファイルを選択します。選択後、OK を押すとファイルが置き換わります。



HTML5 の設定

HTML5 の設定

HTML5 の表示

BrightSign XT, 4K, XD3/XD2, HD3/HD2, LS3 シリーズでは HTML5 を表示することができます。

この機能を利用すると、Web ページをサイネージコンテンツとして表示できます。

＊ BrightSign 製品 は汎用の Web ブラウザーとして使用するように設計されておりません。

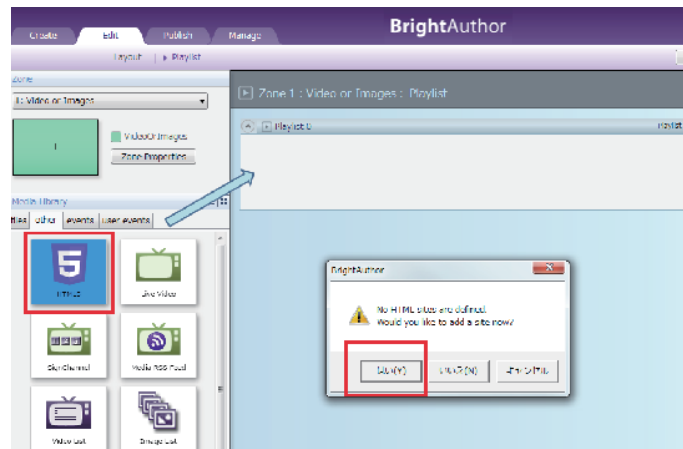
多くの Web ページが BrightSign シリーズで正しく表示できない要素があります。Flash コンテンツや YouTube などの HTML のページに埋め込まれた映像コンテンツは表示できません。Web ページをサイネージとして利用する場合は事前に実機での検証が必要です。

HTML5 の詳細につきましては、下記 URL にあります HTML5 Developer's Guide をご参照ください。

<http://support.brightsign.biz/home>

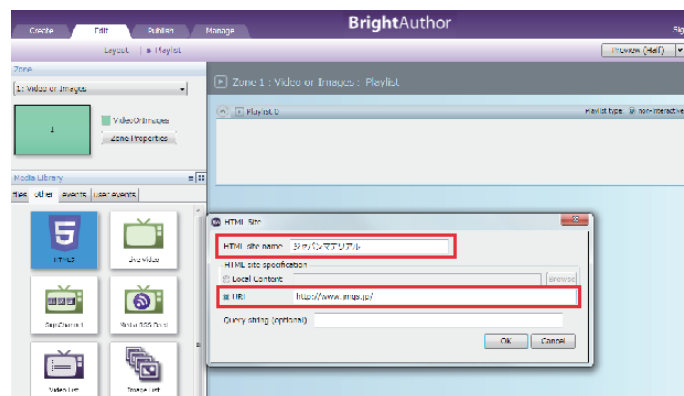
プレイリストの作成

1. プレイリストに HTML5 アイコンをドラッグします。BrightAuthor に HTML サイトを登録していない場合はメッセージウィンドウが開き “No HTML sites are defined. Would you like to add a site now?” と表示されますので “はい” をクリックし次に進みます。



2. HTML サイトの設定

- a) HTML site name : 任意の名前を入力します。
- b) HTML site specification :
 - Local Content : 作成した HTML サイトのパスを入力します。
 - URL : 外部 HTML サイトのアドレスを入力します。



3. HTML5 ウィンドウが表示します。

使用する項目にチェックを入れます。設定終了後 OK をクリックしウィンドウを閉じます。

* BrightSign は初期設定のままでは日本語フォントに対応していません。日本語フォントを表示させるには + Add Font をクリックしフォントを指定する必要があります。フォントは予めご用意ください。



HDMI 入力の設定

HDMI 入力の設定

HDMI 入力について

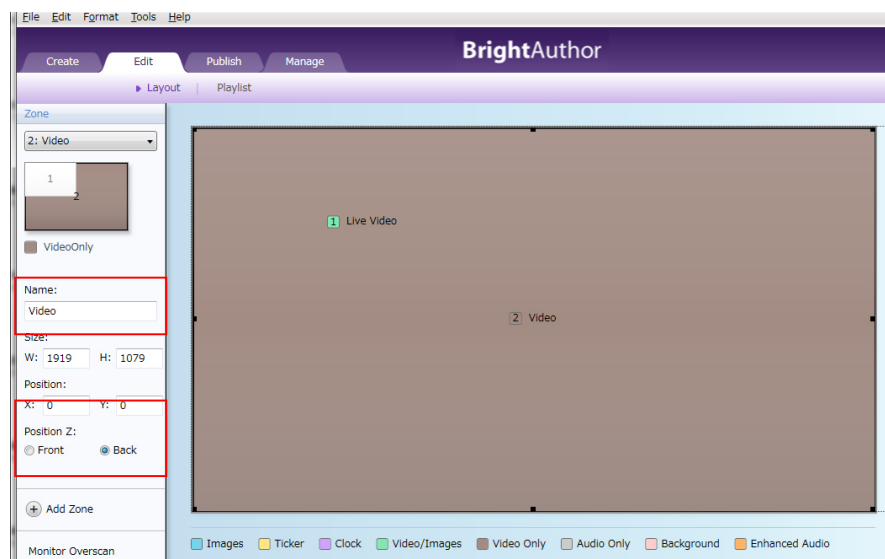
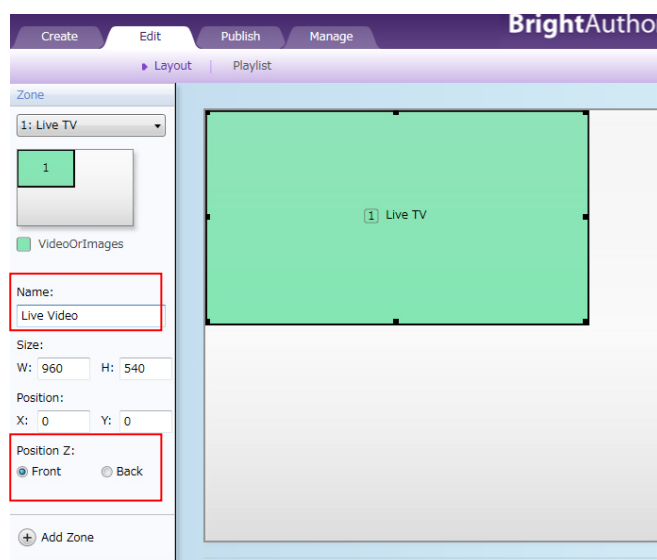
HDMI 入力対応モデル（XT1143, 4K1142, XD1132）を使用すると、HDMI の入力信号を表示できます。

HDCP 1.4 に対応しており、テレビをフルスクリーンで表示させるだけでなく、動画の上にテレビを表示させるなど様々な表示方法ができます。

＊静止画の上に HDMI 入力を表示することはできません。

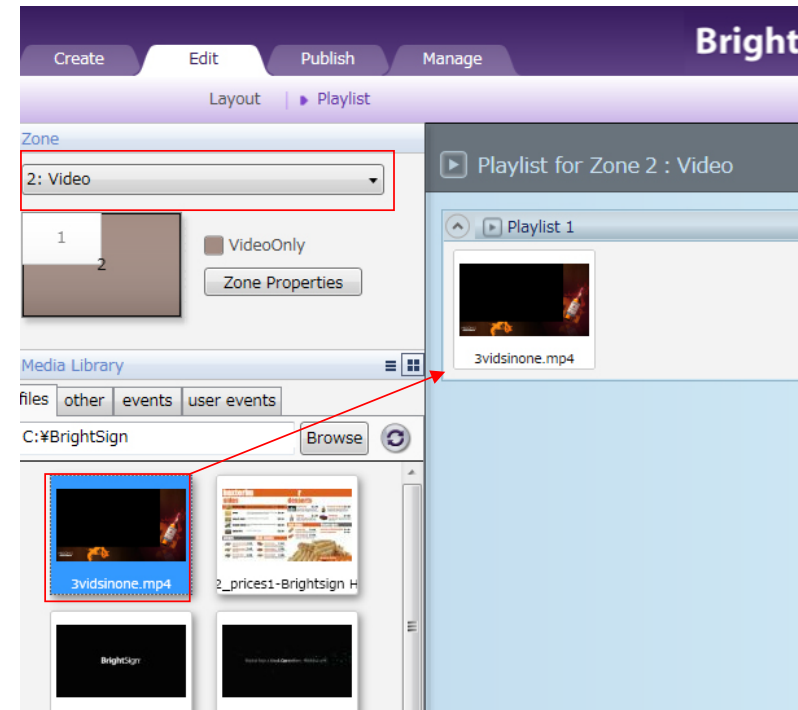
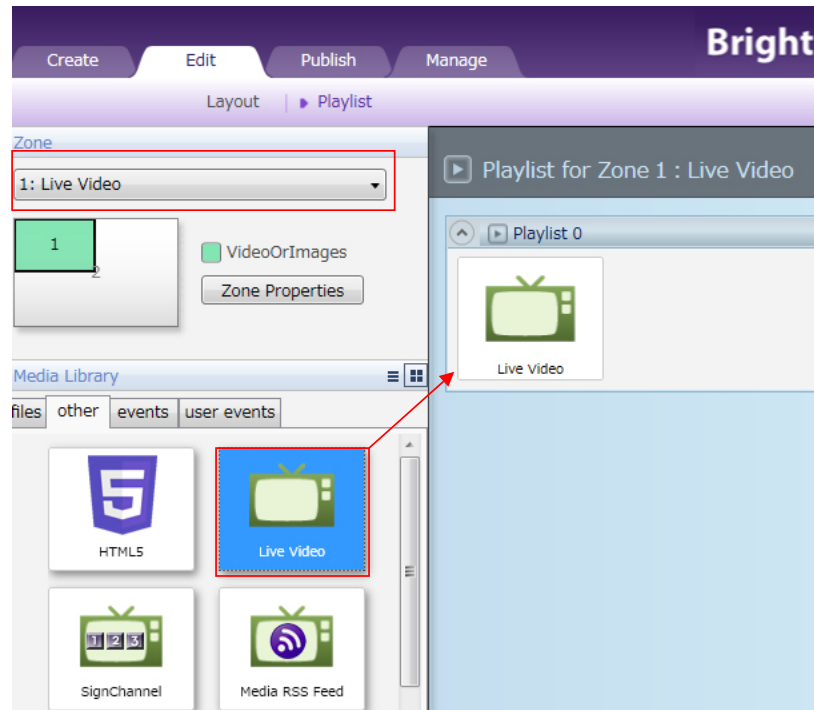
動画ファイルの上に HDMI 入力を表示・レイアウトの編集

Edit タブの Layout を選択し、HDMI 入力を表示するゾーンを設定します。Name: は自由に設定できますので、ここでは Live Video と入力します。また Position が Front になっていることを確認してください。次に +Add Zone をクリックし、Video Only を選択します。Name: は同様に自由に設定できます。ここでは Name を Video と入力します。Position が Back になっていることを確認してください。



動画ファイルの上に HDMI 入力を表示・プレイリストの編集

1. Playlist に戻ります。Media Library から Other のタブを選択し、Live Video をプレイリストにドラッグします。
2. Zone: プルダウンから『2:Video』を選択します。HDMI 入力の後ろに表示させる動画をプレイリストにドラッグします。





プレゼンテーションの切り替え

スイッチプレゼンテーションの設定

プレゼンテーションの切り替え

スイッチプレゼンテーションの機能を使用すると、複数のプレゼンテーションを切り替えることができます。ここでは2つのプレゼンテーションの切り替えを行います。

プレイリストの作成

始めに2つのプレイリストを作成します。

Full Screen.bpf > 全画面表示

2-Zone.bpf > 画面内2分割表示

Full Screen.bpf :

図1のようにFull Screen.bpfファイルを作成します。赤枠のMedia End Eventの箇所をRemain on current stateにチェックをします。

File > Save Full Screen を選択しセーブします。

2-Zone.bpf :

図2のように2-Zone.bpfファイルを作成します。赤枠のMedia End Eventの箇所をRemain on current stateにチェックをします。

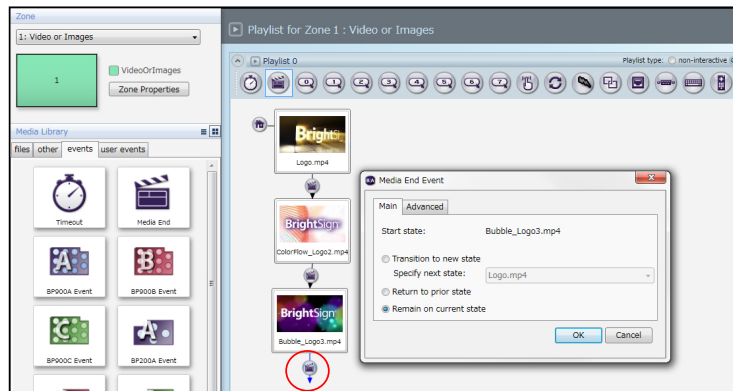


図 1

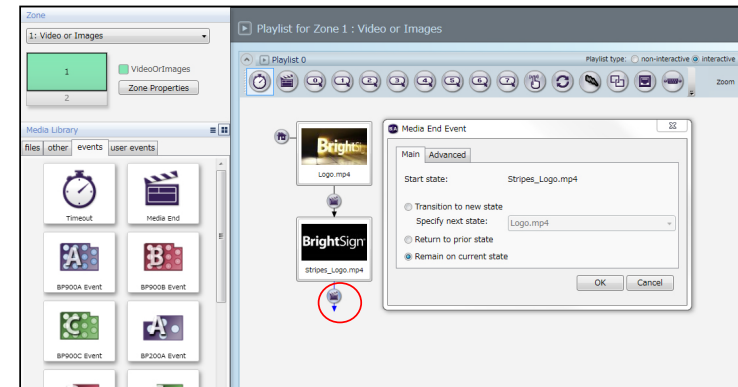


図 2

切り替えるプレゼンテーションの登録

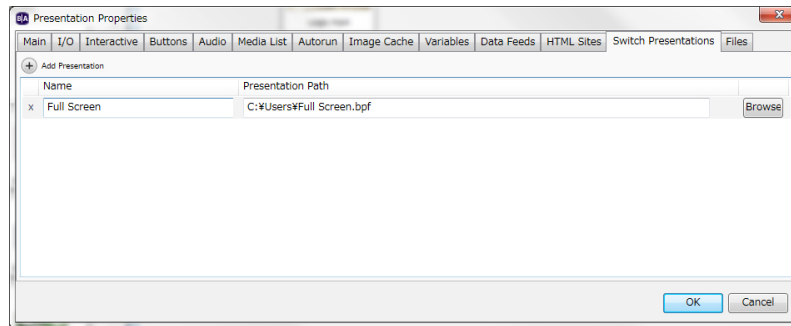
2-Zone.bpf を開きます。メニューより『File > Presentation Properties > Switch Presentations』を選択します。

+ Add Presentation をクリックします。

Name：任意の名前を登録

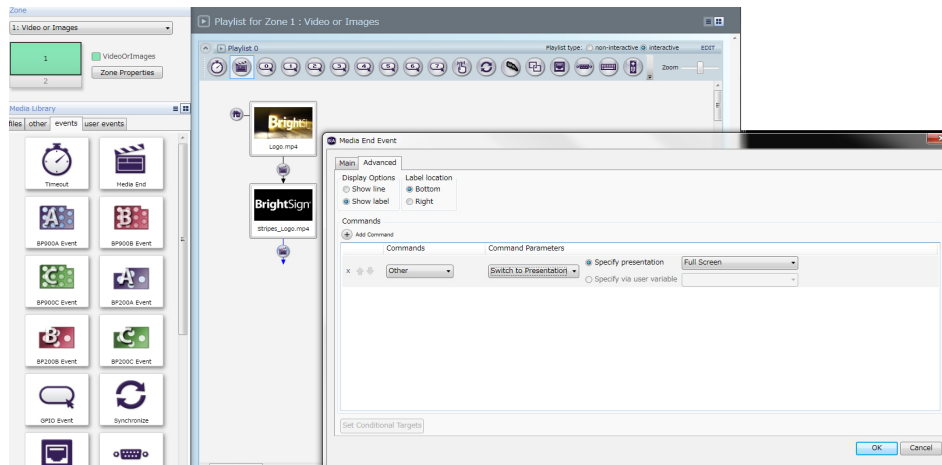
Presentation Path：Browse から切り替えるプレゼンテーション (Full Screen.bpf) を登録します。

OK をクリックして Presentation Properties ウィンドウを閉じます。



プレイリスト上の赤枠の Media End Event をダブルクリックします。Media End Event ウィンドウがから、Advanced タブへ移行します。

+ Add Command をクリックし、Commands > Other, Command Parameters > Switch to Presentation を選択します。Specify presentation に先ほど登録したプレゼンテーションが表示されますので、OK をクリックして Media End Event ウィンドウを閉じます。

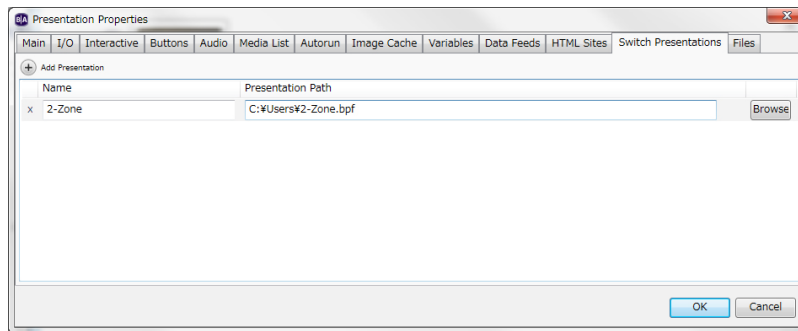


Full Screen.bpf を開きます。メニューより『File > Presentation Properties > Switch Presentations』を選択し、
+ Add Presentation をクリックします。

Name：任意の名前を登録

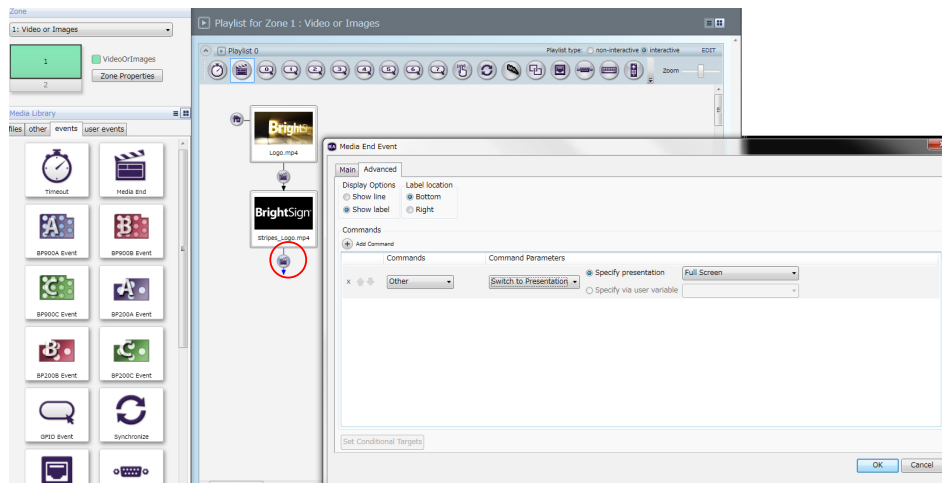
Presentation Path：Browse から切り替えるプレゼンテーション (2-Zone.bpf) を登録します。

OK をクリックして Presentation Properties ウィンドウを閉じます。



プレイリスト上の赤枠の Media End Event をダブルクリックします。Media End Event ウィンドウから、Advanced タブへ移行します。

+ Add Command をクリックし、Commands > Other, Command Parameters > Switch to Presentation を選択します。Specify presentation に先ほど登録したプレゼンテーションが表示されますので、OK をクリックして Media End Event ウィンドウを閉じます。



プレゼンテーションの Publish

Full Screen.bpf を開き、Publish タブへ移行します。一度の Publish で Full Screen.bpf と 2-Zone.bpf が保存されます。

The screenshot shows the BrightAuthor software interface. The top bar has tabs for 'Edit', 'Publish', and 'Manage'. Below the tabs, there are links for 'Local Storage' and 'Local Network'. The left sidebar contains three main sections: 'Presentations' with a file browser showing 'C:\Users' and '2-Zone Full Screen'; 'Debugging' with checkboxes for 'Enable serial debugging' and 'Enable system log debugging'; and 'Publish to' with a file browser showing 'E:\' and radio buttons for 'Standalone unit', 'Setup unit for BrightSign Network', and 'Publish for USB update'. The main area displays a calendar for August 17-23, 2014, with a grid showing 'non-stop event Full Screen' for each day from 4 am to 1 pm.

8月 17-23 2014		Sun, 8/17	Mon, 8/18	Tue, 8/19	Wed, 8/20	Thu, 8/21
non-stop		non-stop event Full Screen	non-stop event Full Screen	non-stop event Full Screen	non-stop event Full Screen	non-stop event Full Screen
4 am						
5 am						
6 am						
7 am						
8 am						
9 am						
10 am						
11 am						
noon						
1 pm						

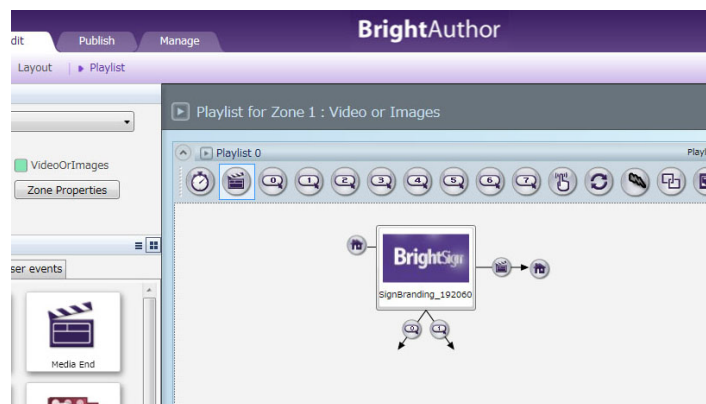


動画ファイルの一時停止の設定

一時停止 / 一時停止解除の設定

プレイリストの作成

下の図では動画ファイルがループ再生中に、GPIO 0 の信号を受けて一時停止をします。また GPIO 1 の信号を受けることで一時停止を解除します。

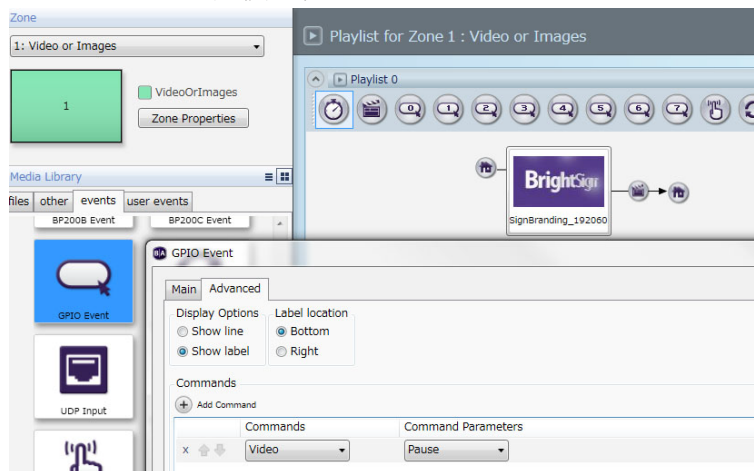


一時停止

Media Library から GPIO Event をクリックしプレイリスト上の動画ファイルの上にドラッグします。GPIO Event ウィンドウが開きます。

Advanced タブへ移行し、+ Add Command をクリックします。

Commands > Video > Pause を選択し、OK をクリックして GPIO Event ウィンドウを閉じます。

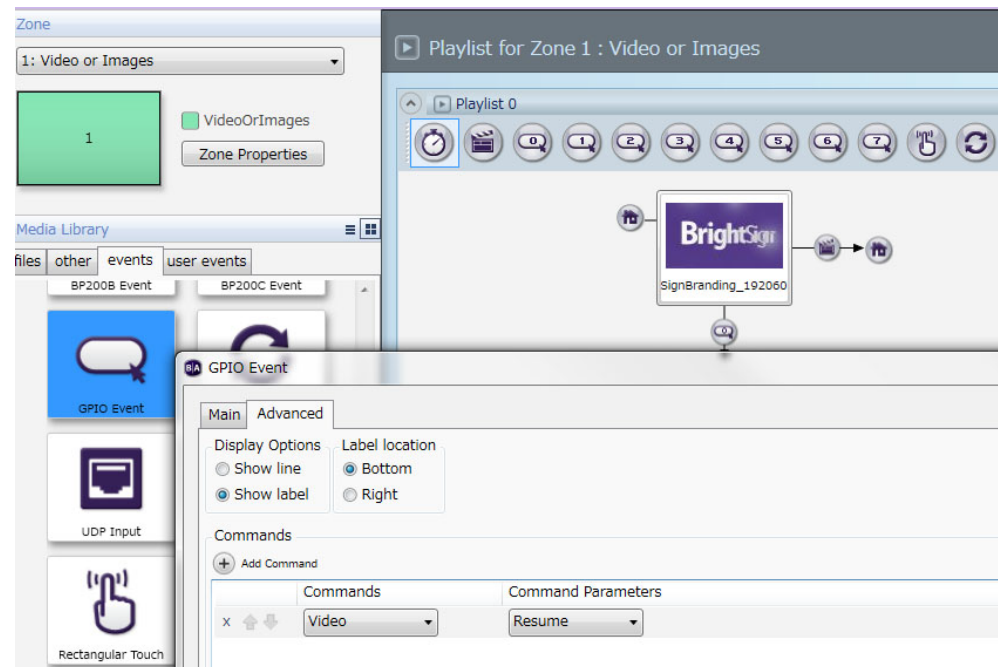
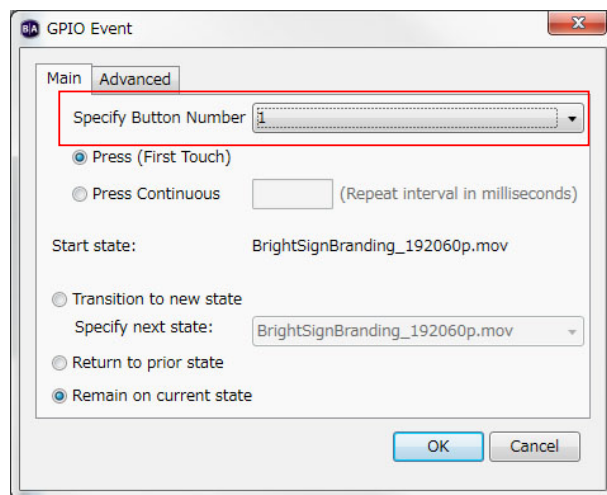


一時停止解除

Media Library から GPIO Event をクリックしプレイリストにある動画ファイルの上にドラッグし、GPIO Event ウィンドウが開きます。

Main タブの Specify Button Number のプルダウンメニューから 1 を選択し、Advanced タブへ移行します。

+ Add Command をクリックし、Commands > Video > Resume を選択します。OK をクリックして GPIO Event ウィンドウを閉じます。





モザイクモードの設定

モザイクモードの設定 < 新機能 >

モザイクモードについて

新機能のモザイクモードを使用すると、複数の動画を同時に表示することでサムネイル動画のような表現が可能となります。

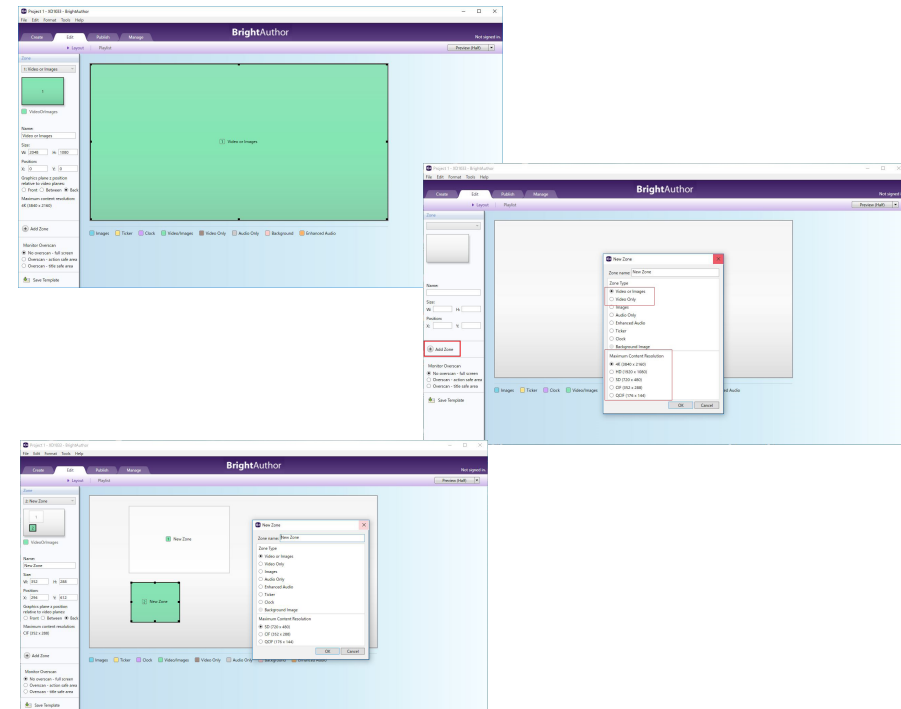
モザイクモードの使用

新規プレゼンテーションを作成時に、「Video zone configuration」にて「Mosaic」を選択します。
プレゼンテーション作成後に、Standard から変更を行うことはできません。

モザイクを使用したレイアウトの作成

1. 初期表示される Video or Image ゾーンを削除します。
中央のグリーン部を一度クリックし、Delete キーを押します。
2. Add Zone から Video or Image か Video Only を選択し、下部の Maximum Content Resolution から使用するモザイクブロックを選び OK を押します。
3. モザイクブロックを複数作成していきます。モザイクブロックは、使用する機種の最大デコード解像度内で作成が可能です。
Maximum Content Resolution では、最大デコード解像度から作成したブロックを差し引いた利用可能分のみ表示されます。

※ モザイクブロックに使用するコンテンツは、選択したブロックの解像度以下で作成されたコンテンツをご用意ください。自動縮小機能はありません。





Bright Beacon の設定

Bright Beacon の設定 < 新機能 >

Bright Beacon の使用

※ 別途 WIFI/Beacon モジュールが必要です。

Beacon を使用する場合は、メニューより『BrightSign Unit Setup』か『Presentation Properties』の Beacons タブから設定を行い、Add Command 機能を使用して Beacon の開始・停止を送信します。

- Start Beacon：ビーコンの開始を送信します。
- Stop Beacon：ビーコンの停止を送信します。

Beacons：(XT3, XD3, HD3 シリーズ, LS423 Only)

オプションの Wireless 機能を追加すると、3 種類の Beacon 機能を使用することができます。

- a) Name：任意の文字を入力します。
- b) Type：使用する Beacon の種類を選択します。
 - iBeacon
 - UUID：Create ボタンを押すと UUID 文字列が生成されます。
 - Major：任意のメジャー値を入力します。
 - Minor：任意のマイナー値を入力します。
 - TxPower：Beacon が発する信号の強さを入力します。(0 to -128)
 - Eddystone URL
 - URL：任意の URL アドレスを入力します。
 - TxPower：Beacon が発する信号の強さを入力します。(0 to -128)
 - Eddystone UID
 - Namespace：10 バイト、20 ケタの 16 進数を入力します。Create ボタンを押すと文字列が生成されます。
 - Instance：6 バイト、12 ケタの 16 進数を入力します。
 - TxPower：Beacon が発する信号の強さを入力します。(0 to -128)

